

喜見的室內遊技

聯珠斜先手心勝本全

一名、五目十五八秘傳寸

聯珠新報社發行

本書の系統と偶感

斜引 此打方は誰れが打始めたかと云ふ譯ではなく昔から打慣し来た者と思はれるが、稍具體的に調べたのは京都の清水松秀氏(昨年七十七歳で没せらる)の談によると伏見の美奈登氏が大桂馬とか小桂馬とかを慶應の頃打始めたのが或は元祖ではあるまいかと、然らば先づ斜引の先祖は同氏と定めても差支あるまい、夫れより明治の初年に至つて門下の随一人として井上義雄氏(將基八段)が生れた(余の師)、年代は判然せぬが其れより下つて和田氏が斜引を和田流と稱して京都に一派を組織したが既に美奈登氏が先入主となりし者を仮令幾分の變化を加へたにもせよ、何流と稱するのは響感せざるを得ぬ、夫れに反して山本氏が山本派を冠して世人の夢想し能はざる立二聯を案出したのは其見識に於て雲泥の差あるのみならず、今日に於ても専念其大成に苦心せらるゝは崇拜し得ざるを得ぬ、然れども今より十年以前迄は漠然と攻守の手段を示した者に過ぎざりしが、高山師が現出して科學的に研究方法を創始せられた爲に爾來斯界は一大變化を來たし定石と云ふ者は局外者と雖も容易に悟入せしむる手段を示す者なりと云ふ事になつた、夫れが爲に漠然主義は破壊せられて斜引でも立二聯でも新たに建設せねばならぬ機會が到來したのである、其第一革命として出版したのが本書だ

正直に告白するが此斜引は余が七年以前井上師から大体の組立教授を受け變化は其當時稻垣天石、神谷觀石の兩氏と高山流に調べたのが根本であるが書中花月、裏櫓等は殆んど破棄の運命に陥りたる爲大に

増史を加へた、以上が本書編纂に於ける歴史的経路を示した者であるが、斯界の進歩は聯珠家として單に斜引や二聯ばかりで満足してはいかぬ七桂や大桂馬やも知りて其幽を探り其微を察して眞理を開發しなければ眞の愛珠家とはなれぬ、どうか充分に研究して頂きたい、終に御斷りをするが本書を記憶して實戦上無難に先手必勝の域に達するには自身の經驗上一ヶ年より三ヶ年を要する讀書百遍意自ら通ずて何んでも閑の時は調べるが何よりの藥と信ずる

大正三年初夏

三 上 生

緒言

聯珠には第三珠の様々な打方がある
今の處にては『い』より『む』に至る廿
三種で、打方によりて名稱が異りま
す参考の爲左に掲ぐ

(第一圖)

十なをらる十
わへいはイぬ
よね〇〇にむ
わへいはイぬ
十なをらる十

(第二圖)

十かた十
れへそり十
かへ〇はろち
たそは〇ほつ
十ろほ口と
十ちつと十

い、花月(斜引直接止)
ろ、梅月(同間接止)
は、雲月(横二聯)
に、松月(立二聯直接止)

ほ、吟月(同間接止)
へ、峽月(七桂第一號)
ど、明月(同第二號)
ち、嵐月(同第三號)
り、水月(同第四號)
ぬ、山月(同第五號)
る、新月(同第六號)
を、殘月(同第七號)
わ、……(大桂馬第一號)
か、……(同第二號)
よ、……(二間打第一號)
た、……(同第二號)
れ、……(七間打第一號)
そ、……(同第二號)
つ、……(同第三號)
ね、……(同第四號)
な、……(同第五號)
ら、……(同第六號)
む、……(同第七號)

本書は右打方の内にて第三珠を『い』
又は『ろ』に打ちて先手必勝に達する
方法を示せる者題して

斜引必勝法

と云ふ先手の打方は三々を生じたる
時は即座に負けなれば三々を生ぜざ
る打方になしたり。尙後手六目以上
の長聯は五目と同等の効力を有すれ
ば黒が白を六目に腐らして勝たる以
前の打方を改めたり

聯珠新報社 編輯局に於て

三上雄石

大正三年五月

斜引先手必勝法

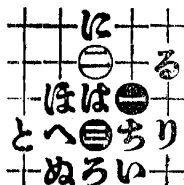
第一編 角止め

角止に對し(四)の止め方は「い」より「ろ」迄の十一ヶ所が有力ならん、順次に章を分ちて説明せん

△目録

- い 第一章 大桂馬
- ろ 第二章 二間夾
- は 第三章 附立
- に 第四章 附下り
- ほ 第五章 角引
- へ 第六章 横桂馬
- と 第七章 斜飛馬
- ち 第八章 小桂馬
- り 第九章 角夾
- ぬ 第十章 角早止
- る 第十一章 裏櫓

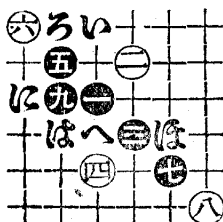
(圖一第録目)



第一編 第一章 大桂馬

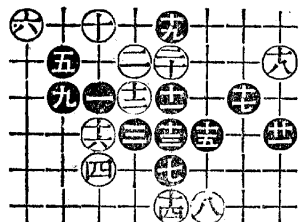
(四)の止め方を大桂馬と云ふ、大桂馬に對し(九)迄目録第二圖の如く打

(圖二第録目)



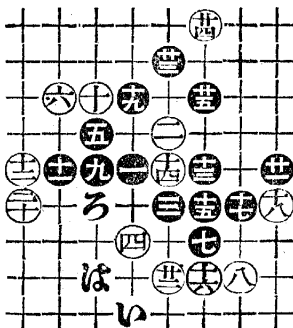
六番に分ち説明し、七番に(六)の反對に來りたるを打示す

○第一番(五勝)



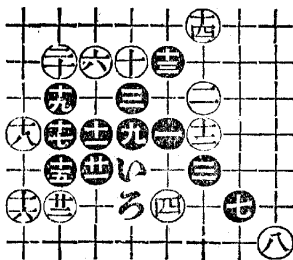
(十)が目録第二圖の「い」に來りたる分(四)反對は(六)と打つ
次は(十)の變化「ろ」の分を示す

○第二番の二(五勝)



(十)が目録第二圖の「ろ」に來りたる分(十)反對ならば「い」と打ち跡(十)ろ、は、の四追勝となる
次は(十)の反對を示す

○二番の二(五迄)



(十)の反對に來れる分(五)より「い」と四追勝
次は(四)の反對を示す

○第二番の三(三迄)

西の反對に來れる分



次は十の變化『は』の分を示す

○第三番の一(三勝)

十が目録第二圖の『は』に來れる分

大反對

は『は』

大に

と打つ

三『は』

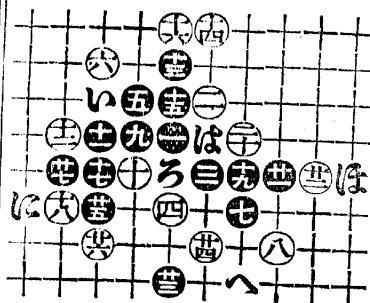
に來らば

『い』と打

ち『ろ』へ

止めさせ

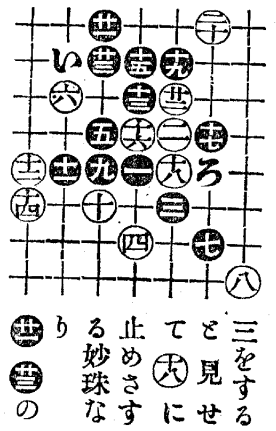
跡と



打たば四追にて、白『へ』の四三も其効を失ふ、次西は反對を示す

○第三番の二(三勝)

西の反對に來れる分、三は『ろ』に四



三をする
と見せ
て大に
止めさす
る妙珠なり

打方順を間違へば『い』へ止められ勝を失ふ斯る場合を乗り手と云ひ實戦家の最も注意を要する事柄なり

次は三の反對を示す

三の反對に來れる分

○第三番の三(四迄)

三の反對に來れる分

三より『い、ろ、は』と四追勝

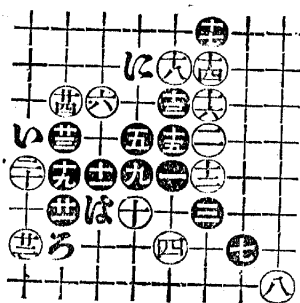
西反對は『大、に』と打ちて兩勝

次は十の變化『に』の部を示す

十の變化『に』の部を示す

十が目録第二圖の『に』に來れる分

○第四番の二(三迄)



西を大に來るも同様

にて『甲、乙』の兩勝

次は三の反對を示す

三の反對に來れる分

三にて『甲、乙』兩勝

大反對は『い、甲』の四追

十の反對に來れる分

三にて『甲、乙』兩勝

大反對は『い、甲』の四追

丙 反對

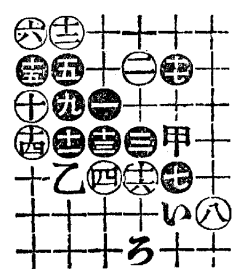
は『六』ろ

乙『四』の

勝

次は『十』

の變化『は』の部を示す

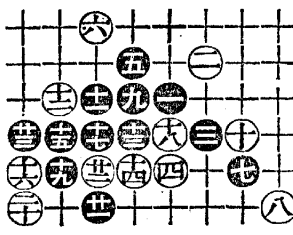


○第五番(三勝)

十が目録第二圖の『は』に來れる分

八 此の『十』は頗る無理なる止め方と云ふべし、故に黒苦しまずして容易に勝つ

次『十』の變化



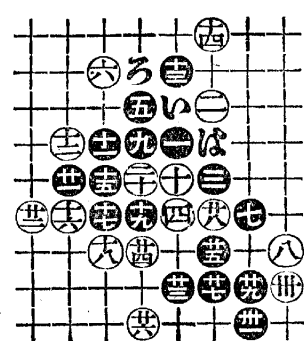
『へ』の部を示す

○第六番の一(三勝)

十が目録第二圖の『へ』に來りる分

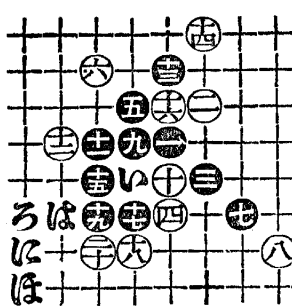
圭の呼珠は後『い、ろ、は』又は『七』

六『五』の兩所に勝を見せたる妙珠



にして八段高山互樂先生の案に係る
『若し』四へ止むれば『ろ、い』と打つ、次は六の變化を示す

○第六番の二(三迄)

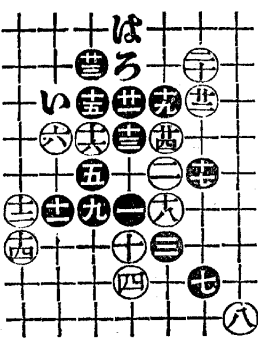


六の變化なり
『い、ろ、は』に、は、に、追勝

六を『い』印に止むれば前局と同様の勝、次は四の反對を示す

○第六番の三(三迄)

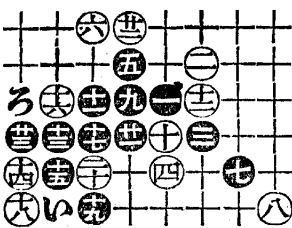
四の反對なり四の跡『い、ろ、は』と



四追勝
六は
何れに止むるも紛れなし

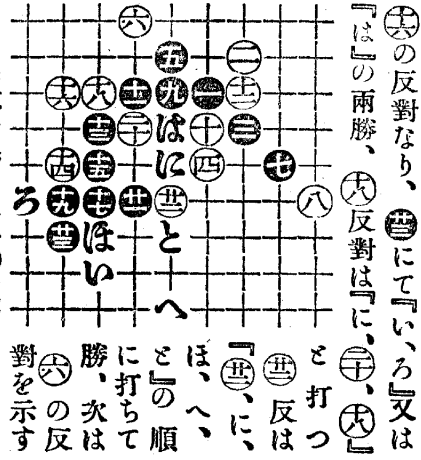
次は五の反對を示す

○第六番の四(三勝)

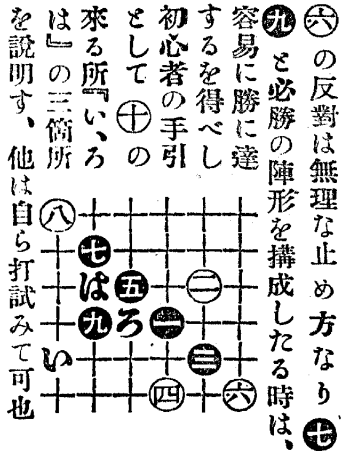


五の反對也
『若し』い
に來らば『十』にて勝つ
次は五の變化を示す

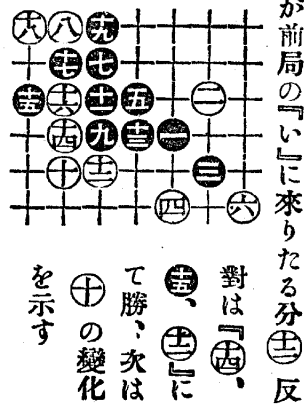
○第六番の五(●)迄



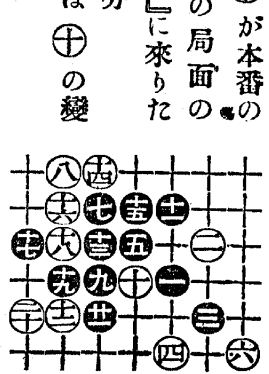
○第七番の一(●)迄



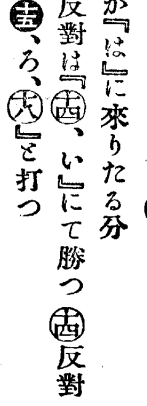
○第七番の二(●)勝



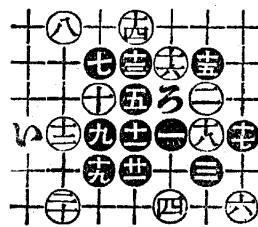
○第七番の三(●)勝



○第七番の四(●)勝



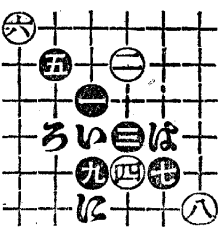
本局にて大
桂馬は終局
となる、
次は第二章
二間夾に移



第一編 第二章 二間夾

四の止め方を二間夾と云ふ、二間夾
に對し九迄目錄第三圖の如く打進
む十の來る所「い」より「に」迄の四

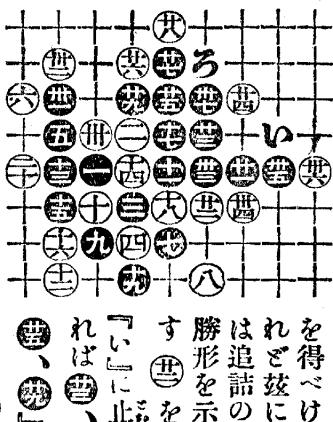
(圖三第錄目)



の反對は五番に詳説すべし十の他
に來りたるは容易なれば打試みてち
得せらるべし

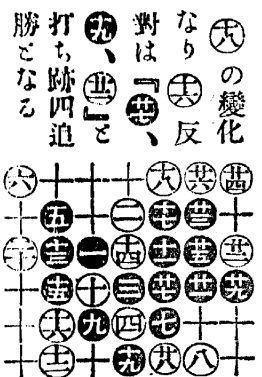
○第一番の一(●勝)

①が目録第三圖の『い』に來りたる分、●の時●に呼珠を下して勝つ



と打ち『ろ』に止めさせ跡『世』、●の四追勝、次は●の反對を示す

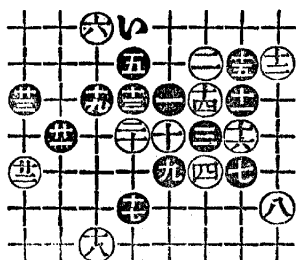
○第一番の二(●勝)



次は●の反對を示す

○第一番の三(●勝)

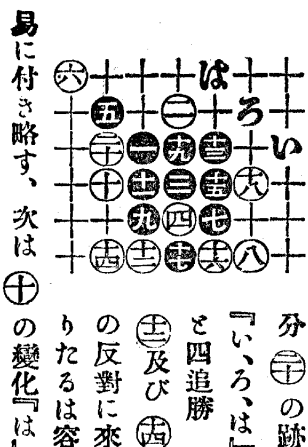
●の反對なり、●を●に止むれば



『ろ』、●と打ちて勝つ次は●の變化『ろ』の部を示す

○第二番(●迄)

①が目録第三圖の『ろ』に來りたる分●の跡

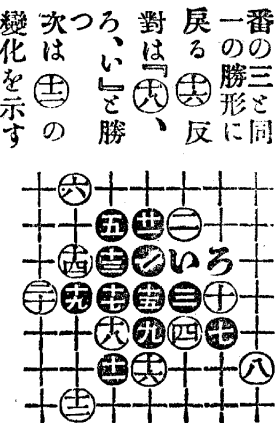


『い、ろ、は』と四追勝●及び●の反對に來りたるは容●の變化『は』次は●の變化『に』の部を示す

の部

○第三番の一(●勝)

①が目録第三圖の『は』に來りたる分、●『い』ならば前に示したる第一



番の三と同一の勝形に反る●對は●、ろ、いと勝つ次は●の變化を示す

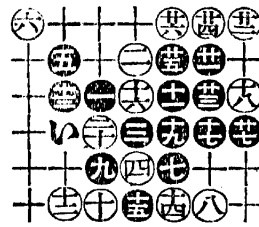
○第三番の二(●迄)

●の變化なり、●の跡『い、ろ、は』に●の四追勝●反對は●、●は、●に



○第四番(●勝)

⑩が目録第三圖の『に』に來りたる分、④若し●へ止むれば●へ打ち、

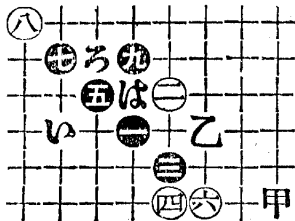


跡容易の勝
直に●へ來らば
『い、●、●』にて勝つ
●の局

面は是迄の局面を參照して打試みられよ、次は●の反對を示す

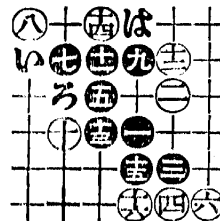
○第五番の一(●迄)

●の反對は●迄圖の如く打進む●は跡甲乙と打進み牽制せんとの積りならん●



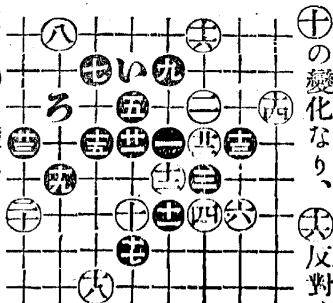
と打つ以上は白致方なし●を『い、ろ、は』の邊に來るも自由に勝つ、參考として次に二三局を示す

○第五番の二(●迄)



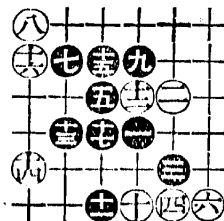
●の變化なり、●の跡
『い、ろ、は』の
四迫勝●反對は『は』と打つ、次は●の變化を示す

○第五番の三(●勝)



●の變化なり、●反對は『い、●』にて勝つ
●反對は『ろ、●』にて四々勝

○第五番の四(●勝)

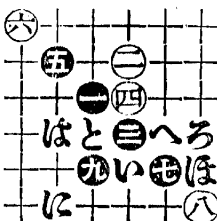


●の變化なり是にて二間夾は終局となる、次は附立に移る

第一編 第四章 附立

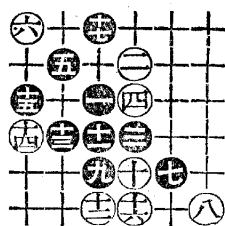
④の打ち方を附立と云ふ、●を圖の『と』に打たば聯珠眞理第六卷への部と同一なれども、斜引の趣旨に據

(圖四第録目)



り斯く●と必勝の組立をなすの來る所『い』より『と』までの七ヶ所を一番より七番に分ち説明し●の反對に來りたるを八番に示す

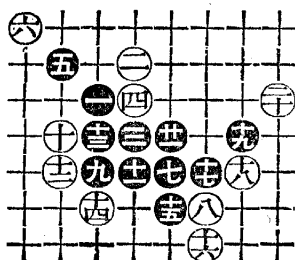
○第一番(●勝)



⑩ か目録第四圖の『い』に
來れる分、次
は⑩の變化
『ろ』の部を示
す

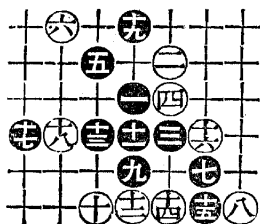
○第三番の一(●勝)

⑩ が目録第四圖の『は』に來れる分



○第四番(●勝)

⑩ が目録第四圖の『に』に來れる分



○第二番(●勝)

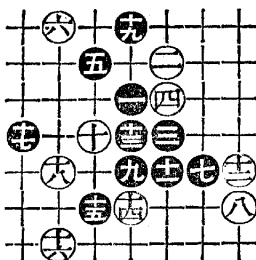
⑩ が目録第四圖の『ろ』に來れる分

⑩ 反對は『い、ろ』と勝つ

⑩ 反對に來るも詮なし

次は⑩の反對を示す

○第三番の二(●勝)

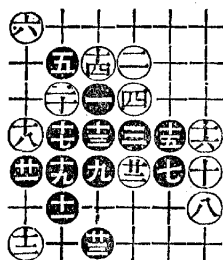


⑩ の反對
なり
次は⑩が
『に』に來れ
る分を示す

次は⑩の變化『は』の部を示す

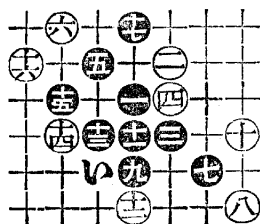
○第五番の一(●勝)

⑩ が目録第四圖の『は』に來れる分



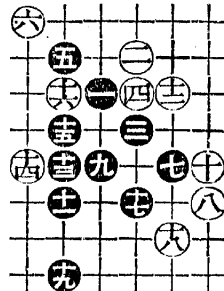
⑩ 反對は
前番を見て
知るべし、
次は⑩の
反對を示す

次は⑩の變化『は』の部を示す



○第五番の二(六勝)

⊕の反對なり⊗は追手なり

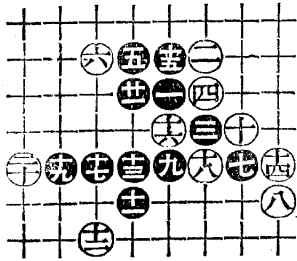


次は⊕の變化『へ』の部を示す

○第六番(⊕勝)

⊕が目録第四圖の『へ』に來れる分

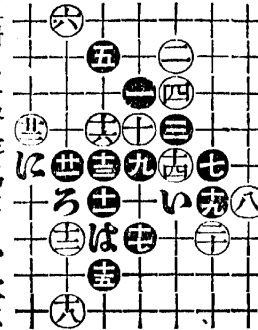
⊕及び⊗の反對は前番を見て知り



れよ、次は⊕の變化『と』の部を示す

○第七番の一(⊗迄)

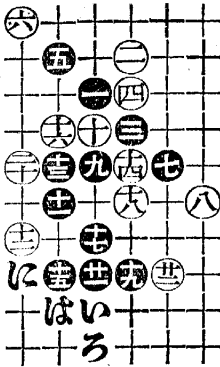
⊕が目録第四圖の『と』に來れる分の後『い、ろ、は、に』の四追勝を『は』に止むれば『い、ろ』の勝



⊕反對は一層容易なり、次は⊗の變化を示す

○第七番の二(⊗迄)

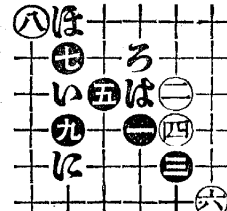
⊗の變化なり、⊗の後『い、ろ、は、に』と四追勝



次は⊗の反對を示す

○第八番説明

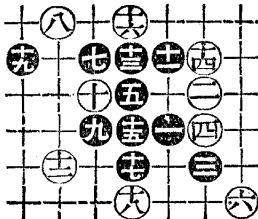
⊗の反對は⊗まで圖の如く打ち進む



⊕の來る所『い』より『は』迄の五ヶ所を順次に説明す

○第八番の一(⊗勝)

⊕の變化『い』の部なり



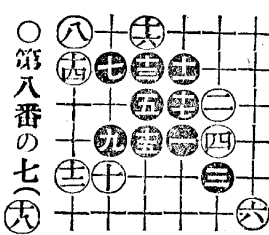
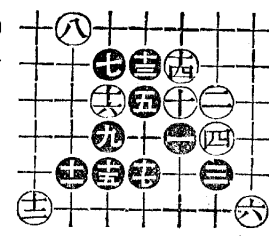
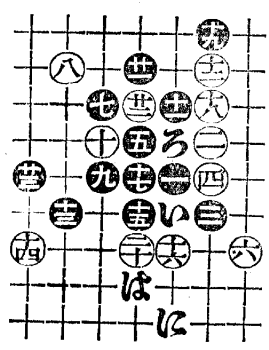
次は⊕の反對を示す

○第八番の二(⊗勝)

(白)の反對なり、(大)を『い』に来るも
同様の勝、若し『ろ』に来らば『大』は

○第八番の四(中勝)
變化『は』の部なり

る所に勝あり、白の止め方鈍きを知
るべし



い、に』の勝、次は 十 の變化を示す

○第八番の三(大勝)

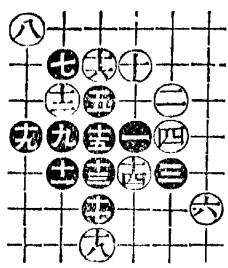
の變化『ろ』の部なり

○第八番の五(吉迄)
の變化『に』の部なり
吉にて容易の勝となる

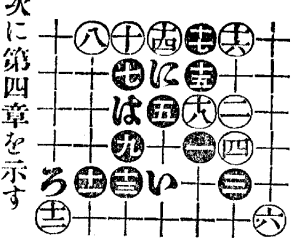
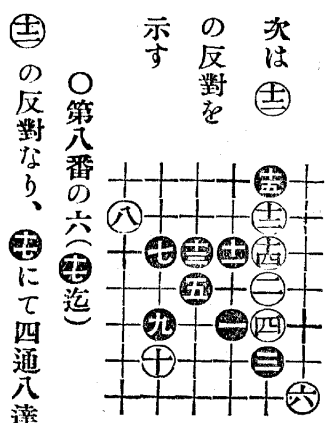
次は 十 の
變化を示す

○第八番の七(大迄)

十の變化『は』の部、(大)の後『い、ろ、
は、に』の四追勝 十 反對なれば恐れ
ず 吉を同様に打たば跡四追勝とな
る手故白止め方なく黒の獨相撲なり



次は 十
の變化を
示す



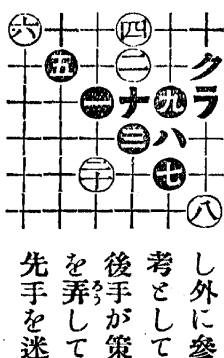
要するに八番
は無理なる故
少しも縛れた
る局面なきは
初心者の研究
には大に悟入
するに近し、

○第八番の六(吉迄)
の反對なり、(吉)にて四通八達到
次に第四章を示す

第一編 第四章 附下り

④の打方を附下りと云ふ、附下りに對し⑤迄打進む圖の如し⑩の來る所「サ、ク、ラ、ハ、ナ」の五ヶ所を打示

(圖五第錄目)



し外に參考として後手が策を弄して先手を迷

はさんとするが如き局面を示す
⑥の反對は終りに示す

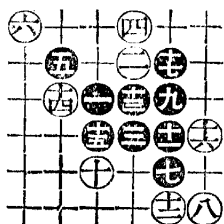
第一番(⑤勝)

①が目録第五圖の「サ」に來りたる分、②反對は「四、⑤、⑥、⑦」と勝つ

次は⑩の變

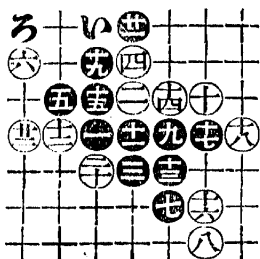
化「ク」の部を

示す



○第二番の二(⑤迄)

①が目録第五圖の「ク」に來りたる分、②の跡「い、ろ」と四追勝



次は③反對を示す

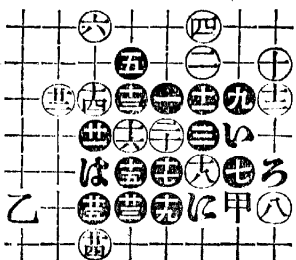
○第二番の二(⑤迄)

③の反對なり、④にて「甲、乙」兩勝⑤を⑥に止むれば「い」と打つ⑥を

次は③の反對を示す

○第三番の二(⑤迄)

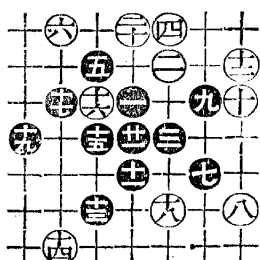
「ろ」に防ぎ止めに廻るも四追残る故手なし、⑥を「は」に止むれば「に」に打ち⑥に止め



させ④の順にて勝つ、次は⑩の變化「ラ」の部を示す

○第三番の二(⑤勝)

①が目録第五圖の「ラ」に來りたる分、②にて黒軍大優勢にて自由自在の勝となる



③の反對な

り

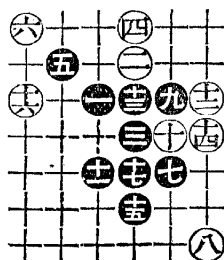
次は⑩の變

化「ハ」の部を

示す

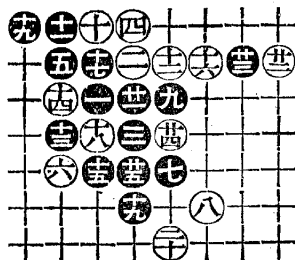
○第四番(●勝)

⊕が目録第五圖の「ハ」に來れる分
⊕及⊕反對に來るも打方に變りな
きは面白し



次は⊕の
變化「ナ」の
部を示す

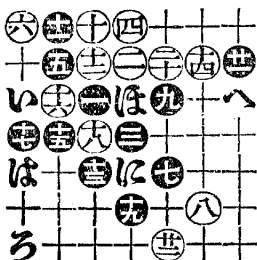
○參考の一例(●勝)



○參考の三例(●迄)

⊕より「い、ろ、は、に、は、へ」の四
追勝、參考の局面少しく珠順を巧妙
に打ちたる傾あるも力量を上達せし
むる爲也、變化は自ら打試むべし

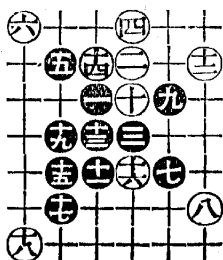
次は⊕
の反對を
示す



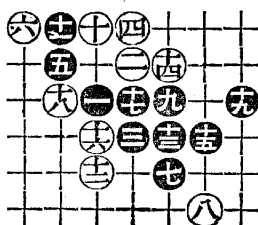
○第五番(●勝)

⊕が目録第五圖の「ナ」に來れる分
⊕反對は前數局を參照せよ

次に參考
として三
局を示す

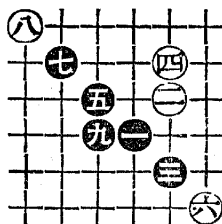


○參考の二例(●勝)



○第六番(●迄)

⊕の反對は圖の如く●迄打進む⊕



にて附下りは終る次は角合引を示す

何れへ來るも
大桂馬及び二
間夾み等既に
打示したる局
面によりて勝
ち方は合點せ
らるべし、是

第一編 第五章 角引 かどびき

④の止め方を角引と云ふ、本局は

⑦を圖の如く打つ⑧の來る所『い、

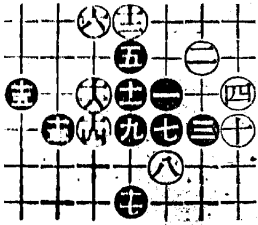
ろ、は』の三ヶ所を打示す若し『に』に來らば第三番と同様の勝あり

⑥の反對は第四番に示す



○第一番の一(白勝)

⑧が目録第六圖の『い』に來れる分



次は⑩の反對を示す

○第一番の二(白迄)

⑩の反對なり④より『い、ろ、は、

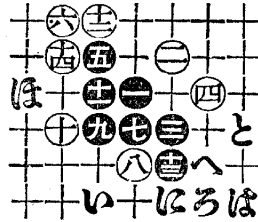
に』と四追勝⑤反對

は『は、④、

⑤』と勝つ

④反對は

『に、へ、と』

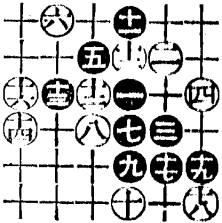


の勝、次は⑧の變化『ろ』の部を示す

○第二番の一(白勝)

⑧が目録第六圖の『ろ』に來りたる

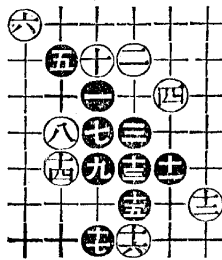
分、次は⑩の反對を示す



○第二番の二(白勝)

⑩の反對なり

次は⑧の變化『は』の部を示す

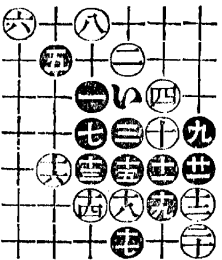


○第三番(白勝)

⑧が目録第六圖の『は』に來れる分

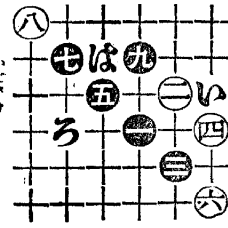
⑥反對は『い』と打つ

次は⑥の變化を示す



(第四番(九九))

△の反對に來れるは圖の如く(七九)と打進む、△は『い、ろ、は』等へ來る



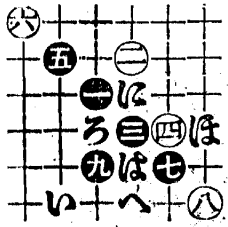
ならんも附下り等に示しあれば説明せずとも自ら打試みて可なり、

是にて角引は終る、次は横桂馬を示す

第一編第六章 横桂馬

△の止め方を横桂馬と云ふ、本局は九迄圖の如く打進む△の來る所

(圖七第録目)



『い』より『へ』までの六ヶ所を打示す

本局は△を直に△の所に下さば

『は』の變化は不用に歸すれども、第

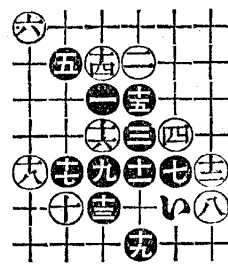
二編に至りて、應用する珠形なる故

斯く打ちたり△の變化は第七番に

示す

○第一番(九勝)

△が目録第七圖の『に』に來れる分



△反對は『△、△、い、△』にて勝

次は△の『は』の部

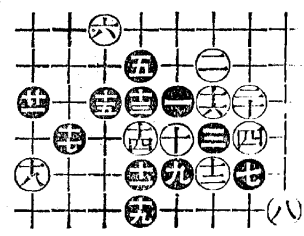
○第二番(九勝)

△が目録第七圖の『ろ』に來れる分

次は△の變化『は』の部を示す

○第三番(九迄)

△が目録第七圖の『は』に來りたる分



△にて二

間夾第一番

と全く同一

次は△の

變化『に』の

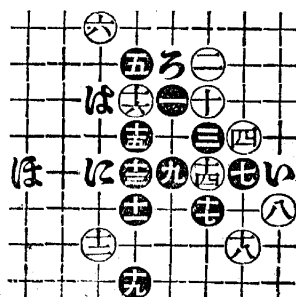
部を示す

○第四番(九勝)

△が目録第七圖の『に』に來れる分

△『い』に來らば『ろ、は、に、は』と

勝つ

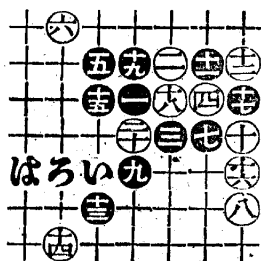


次は⑩
の變化
『は』の
を示す

○第五番(⑩迄)

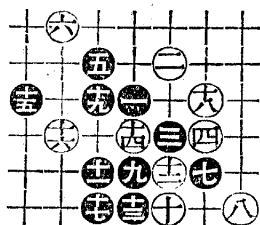
⑩が目録第七圖の『は』に來れる分

⑩より『い
ろ、は』と四
追、次は⑥
の變化を示
す



○第六番(⑥勝)

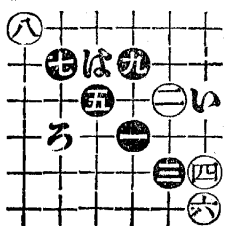
⑩が目録第七圖の『へ』に來りたる分



次は⑥の
變化を示す

○第七番(⑨迄)

⑥の反對は⑨迄圖の如く打進む⑩
は『い、ろ、は』等に來る手あらんも、
附下り等に打
示しあれば詳
細の變化は略
する事とせり
是にて横桂馬
は終る、次は斜飛を説明す

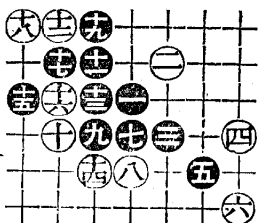


第一編 第七章 斜飛

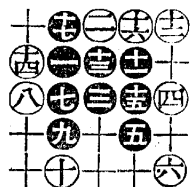
④の止め方を斜飛と云ふ、本局は
第五章角引と殆んど同一の珠順に歸
するを以て、詳細なる説明を要せず

只第五章になき分のみを茲に示す

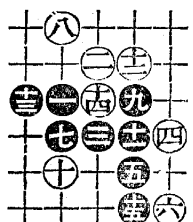
(其壹)



(其貳)



(其參)



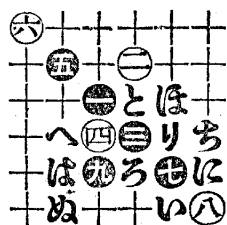
以上三局を
以て斜飛は
終る、次は
讀者の渴望
せる小桂馬
を示さん

第一編 第八章 小桂馬

(上之部)

④を斯く桂馬に夾みたるを小桂馬
と云ふ、小桂馬に對し⑨迄打進む
⑩の來る所『い』より『り』迄の九ヶ

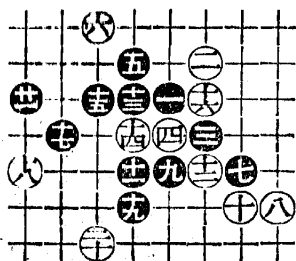
(圖八第録目)



所を打す、以上を上之部となす、又 $\oplus$ が圖の『ぬ』に來りたる分及 $\ominus$ の反對を下之部となし順次に解説せん

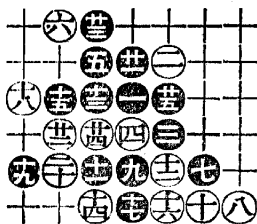
○第一番の一($\oplus$ 勝)

$\oplus$ が目録第八圖の『い』に來れる分



次は $\ominus$ の變化を示す

○第一番の二($\ominus$ 勝)
 $\ominus$ の反對なり

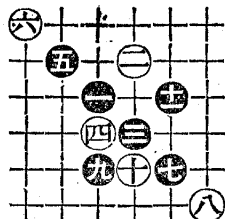


次は $\oplus$ の變化『ろ』の部を示す

○第二番($\oplus$ 逆)

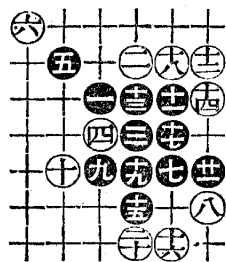
$\oplus$ が目録第八圖の『ろ』に來れる分
本局は第二章二間夾第一番と同様の勝となる

○第三番の一($\oplus$ 勝)



次は $\oplus$ の變化『は』の部を示す

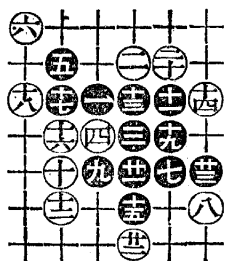
$\oplus$ が目録第八圖の『は』に來れる分
 $\ominus$ 反對も同様



次は $\oplus$ の反對を示す

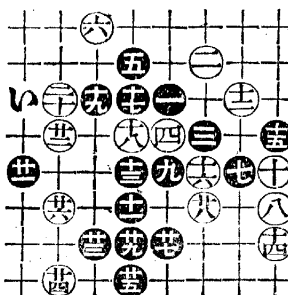
○第三番の二($\ominus$ 勝)

$\oplus$ の反對なり
 $\ominus$ 反對も同様に打つ
次は $\oplus$ の變化『に』の部を示す



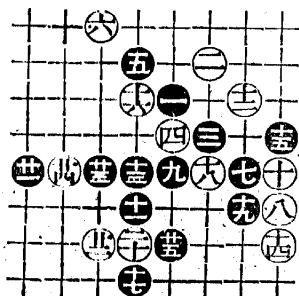
○第四番の一(●勝)

が目録第八圖の『に』に来れる分
 ⑤は含み追手也 ④は乗り手を兼



ねたる追手 ⑤止めながらの四追なり、
 ①『に』に来るも差支なし
 次は ⑥の變化を示す

○第四番の二(●勝)

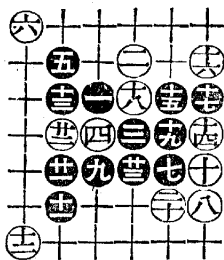


⑥の變化なり

次は ⑤の反對を示す

○第四番の三(●勝)

⑤の反對なり



次は ④の變化を示す

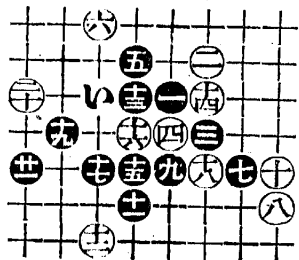
○第四番の四(●勝)

④の變化なり、④『い』ならば前局
 と同一に勝つ

次は ①の

變化『は』の

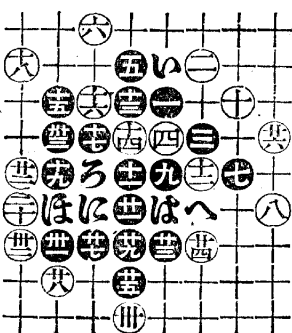
部を示す



○第五番(●勝)

が目録第八圖の『は』に来れる分
 ⑥反對は⑥と引き⑤を『い』に止め
 させ ⑤へ打たば何れより止むるも
 四追勝

⑤は追手也即『ろ、⑤、に、は』の四

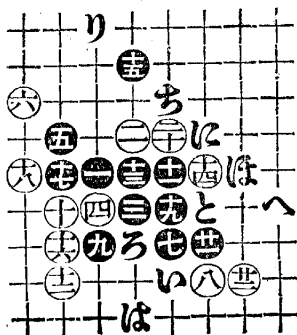


追あり、⑤『ろ』ならば『⑤ ⑥は、
 ⑤』勝④『は』ならば⑥と打つ迄 ⑥
 を『へ』に来るも差支なし
 次は ①の變化『へ』の部を示す

○六番の一(●迄)

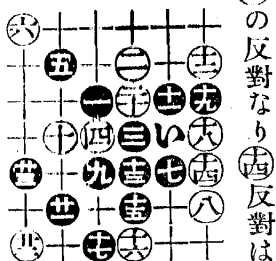
が目録第八圖の『へ』に来れる分

⑤より『い、ろ、は』と四追勝⑥ 反對は『に、ほ、へ、と』の勝



⑥を⑤に來らば『に、ち』の勝
又⑥へ止むれば本局の通り
次は⑤の反對を示す

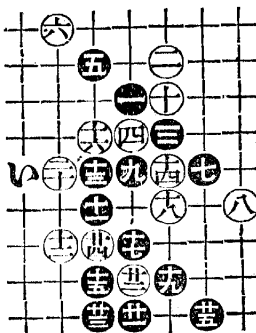
○第六番の二(●勝)



⑤の反對なり⑥反對は『子、い』迄
次は⑤
の變化
どの部を
示す

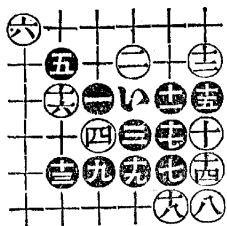
○第七番(●勝)

⑩が目録第八圖の『と』に來れる分
⑤反對は⑥迄同様に打ち『⑤⑥』
の勝⑥を⑤に割り込めば『⑥⑤』
の勝



の勝⑤反對は『⑤、⑥⑤⑥』にて全
勝、次は⑤の變化『ち』の部を示す

○第八番の二(●勝)



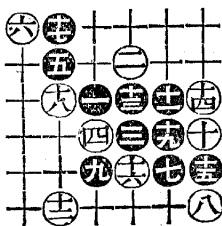
⑩が目録
第八圖の
『ち』に來れ
る分

止むれば四追勝⑥を『い』に來るも
差支なし、次は⑤の反對を示す

○第八番の二(●勝)

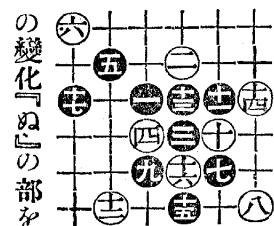
⑤の反對なり⑥反對は『⑥⑥⑥』
の勝

次は⑤の
變化『り』の
部を示す



○第九番(●勝)

⑩が目録第八圖の『り』に來れる分



次は⑤の變化『ぬ』の部を第九章に

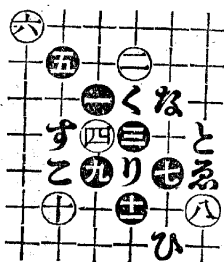
説明す

第一編第八章 小桂馬

下之部

小桂馬下之部は⑩が目録第八圖の『ぬ』に來りたる分を示すものにして小桂馬の眼目なり、①を下す時①

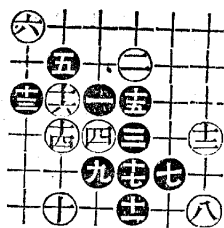
(圖九第録目)



は『と、り、な、く、こ、ゑ、す、ひ』の八ヶ所に來るならん、此の八ヶ所を一番より八番に分ち説明し、九番に⑥の反對を示す

○第一番(⑦勝)

①が目録第九圖の『と』に來れる分



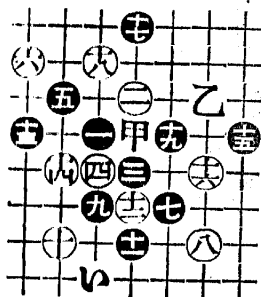
次は①の變化『り』の部を示す

○第二番(⑧迄)

①が目録第九圖の『り』に來れる分
①『い』に來らば『ち、ち、乙』の順に打つ、①にて『甲、乙』兩勝

次は①の變化

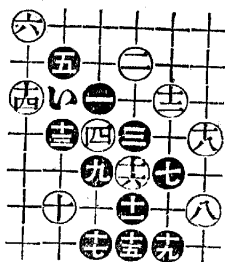
『な』の部を示す



○第三番(⑨勝)

①が目録第九圖の『な』に來れる分

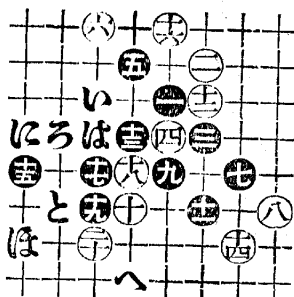
④反對は『い、④』と打ちて勝つ



次は①の變化『く』の部を示す

○第四番(⑩迄)

①が目録第九圖の『く』に來れる分の跡『い、ろ、は、に、ほ』の四追勝を『は』に止むれば『へ、と』の勝

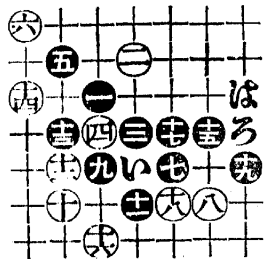


①を『ろ』に止むれば『へ、と』と勝つ、次は①の變化『こ』の部を示す

○第五番の一(九迄)

⑤が目録第九圖の『こ』に来れる分

⑨にて『い』又は『ろ』は⑤の兩勝



ばろ

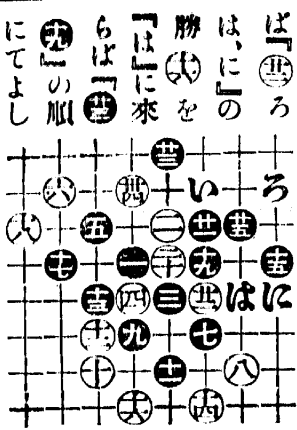
次は⑥

の反對を

示す

○第五番の二(七勝)

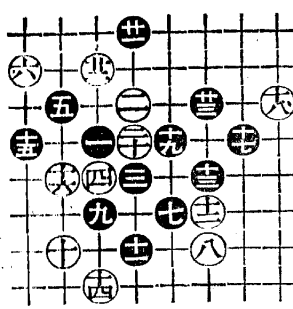
⑤の反對なり、⑥を『い』に止むれ



次は⑤の變化『ろ』の部を示す

○第六番(七勝)

⑤が目録第九圖の『ろ』に来れる分



次は⑤

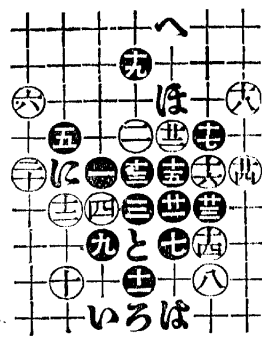
の變化

『す』の部

を示す

○第七番の一(四迄)

⑤が目録第九圖の『す』に来れる分

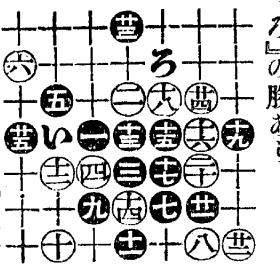


⑥の後『い』ろ、は⑤の四追勝⑤を

『に』に来らば『と』に延び置き『は、
⑤へ』本局は⑤又は⑥を⑤に打つ
手なし、次は⑥の變化を示す

○第七番の二(七勝)

⑥の變化なり⑥反對は『い、九、
⑥、ろ』の勝あり



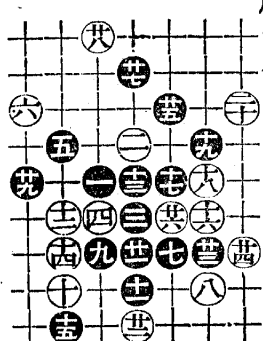
次は⑥

の變化を

示す

第七番の三(七勝)

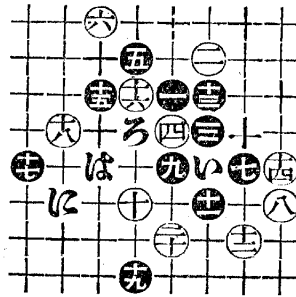
⑥の變化なり⑥を⑤に來れるは
前局を見よ



次は(十)の變化『ひ』の部を示す

○第八番(十迄)

(十)が目録第九圖の『ひ』に來れる分
(十)の後『い、ろ、は、に』の四追勝(四)



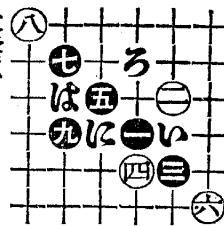
を『い』に來らば第七番の一を見るべし、次は(六)の反對を示す

○第九番(九迄)

目録第八、九兩圖の(六)の變化なり

圖の如く黒打進まば(十)は『い、ろ、は、に』の邊に防ぐならんも黒勞せずして勝たん、打方は説明せざるも今

次は角夾かしはさみを示す

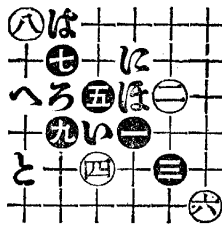


迄の講義にて足れり
是にて小桂馬は終局となす

第一編 第九章 角夾

(四)の止め方を角夾と云ふ、本局は九迄圖の如く打進む、(十)の來る所『い』より『と』迄の七ヶ所を説明す、

(圖十第録目)

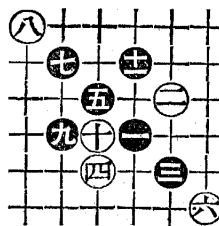


若他に來りたる場合は容易なる故自ら打試みて可なり
本局は圖の『ろ』に(九)を下すも勝あ

れど條理に反する嫌あれば本圖の方を示す(六)の反對は同形になるべし

○第一番(十迄)

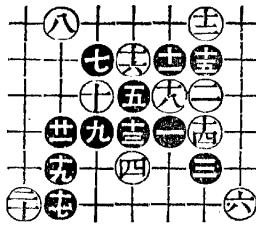
(十)が目録第十圖の『い』に來れる分
本局は第八章上之部小桂馬第六番と同一の形なり故に略す



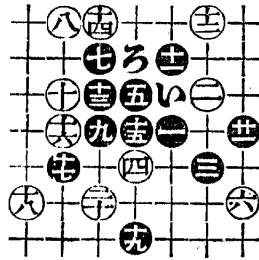
次(十)の變化『ろ』の部を示す

○第二番の(十勝)

(十)が目録第十圖の『ろ』に來れる分



(六)反對は(六)(十)(六)の勝
次は(十)の反對を示す



次は ⑩
の 變化
『と』の勝
を示す

○第七番(⑩迄)

⑩が目錄第十圖の『と』に來れる分

⑩は呼珠なり⑩『い』に來れるは、

本章第一番

に同じ、又

た⑩『ろ』

『ほ』に來れ

る同二番及

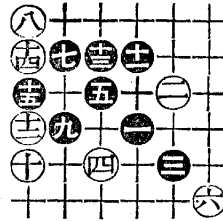
五番に同じ、次に

⑩の變化二三局

○第七番の二(⑩迄)

⑩の變化なり、⑩にて四通八達到

る所に勝あれば⑩以後は打試むるに任す

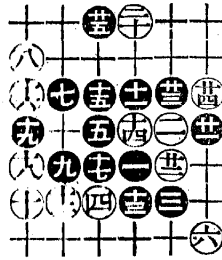


次は ⑩の
變化を示す

○第七番の三(⑩勝)

⑩の變化なり、⑩反對は四追勝、⑩

反對⑩と勝つ



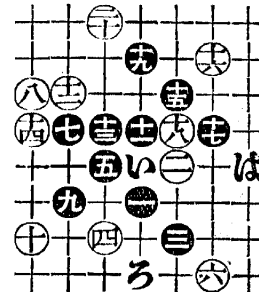
次は ⑩
の變化を
示す

○第七番の四(⑩迄)

⑩の變化なり、⑩の後、⑩は、⑩の

四追勝

是にて角夾は終る、次に角早止を示す



第一編 第十章 角早止

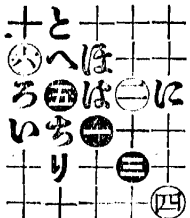
④の止め方を角早止と云ふ、本局

は甲圖の如く五珠を下さば圖の⑥

以外の『い』より『り』に來れる⑥は

(圖一十第錄目)

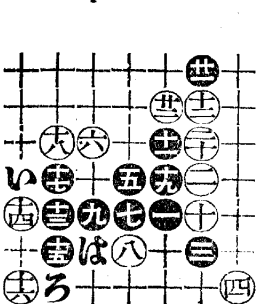
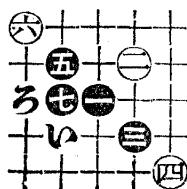
甲 圖



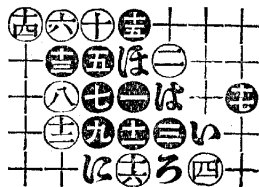
皆此の書に講述せる第一章より第九

章迄と同
一に歸す
るを以て
第二圖の
如く(六)

乙 圖



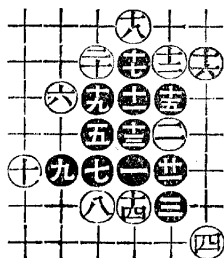
次は(十)
の變化
『ろ』の部
を示す



『は、に』の兩勝
(六)を『は』に止
むればと打つて
まではにて角早
止は終る、次は
裏櫓を示す

○第一番の一(五勝)

(八)が目録第十一圖の乙の『い』に來
れる分、(八)の(六)に來れるは大桂馬
を見て知るべし



(八)が(十)
に來れば
角引第三
番と同様
の勝

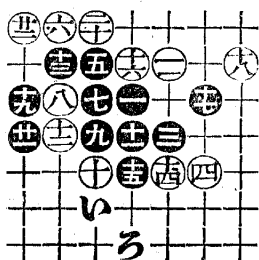
(八)が目録第十一圖の乙の『ろ』に來
れる分

(十)の後『い、ろ』と四追勝

次は(十)

の反對を

示す



○第一番の二(五迄)

(十)の反對なり(五)の後『い、ろ、は』の
四追勝

○第二番の二(五迄)

(十)の反對なり(五)にて『い、ろ』又は

第一編 第十一章 裏櫓

上之部

(四)の止め方を裏櫓と云ふに非ず、
茲には(五)の珠形により命名せるな

(圖二十第録目)



り(六)の來
る所『イ』よ
り『ヌ』迄の
十箇所を本
章上の部に

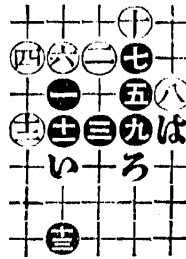
説明し(六)が圖の『ル』に來れるは變
化多きを以て本章下の部に詳説す、
此の内『イ』及『ロ』の變化は不用に似

たれども初心者の爲めに附加せり

○第一番の一(吉迄)

六が目録第十二圖の『イ』に来れる分、吉にて『い』又は『ろ、は』の兩勝

十反對は『は』に打つ



次は八の變化を示す

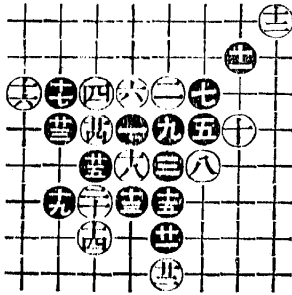
○第二番の二(吉勝)

八の變化なり

次は十

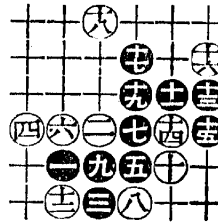
の反對を

示す



○第二番の三(九勝)

十の反對なり



次は八の變化を示す

○第一番の四(九勝)

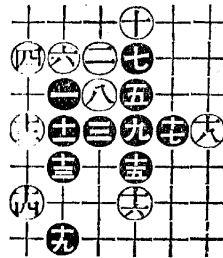
八の變化なり

次は六

の變化

『ロ』の部

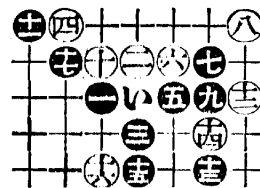
を示す



次は十の反對を示す

○第二番の二(世勝)

十の變化なり



次は十の變化を示す

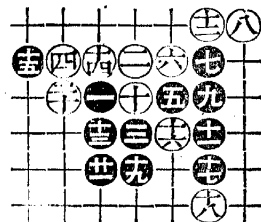
六が目録第十二圖の『ロ』に来れる分

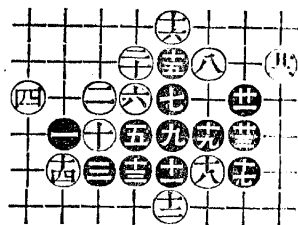
○第二番の一(七勝)

十を十に来らば『十、い』と打つ

○第二番の三(世勝)

十の反對なり





次は 八の

反對を示す

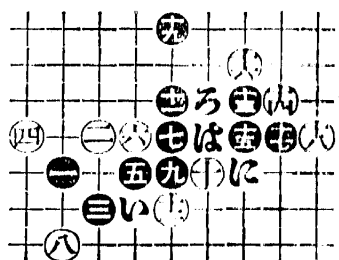
○第二番の四(白勝)

八の反對なり(白)反對は「五い、三」の勝(白)「ろ」に來らば「は、に、七五」の勝
本局は(白)へ引くも早き勝あり

次は(白)

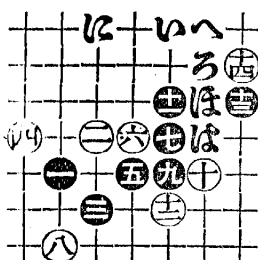
の變化を

示す



○第二番の五(白迄)

八の變化なり(白)の後「い、ろ、は、に」は、へ」と順に打ち進まば勝に達す



次は(六)

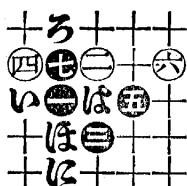
の變化

「ハ」の部

を示す

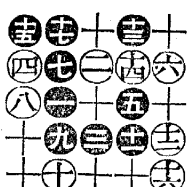
○第三番説明

六が目錄第十二圖の「ハ」に來れる
分七を圖の如く下す(八)の來る所
「い」より「は」迄の五ヶ所を順次に打
示す



第三番の一(白勝)

八の變化「い」の部なり



次は(八)の變化

を示す

○第三番の二(白勝)

八の變化「ろ」の部なり

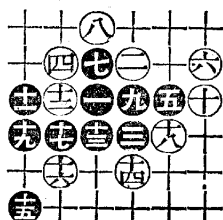
「吉」迄にて跡容易なり(十)反對は「六」
と打たば追詰あり

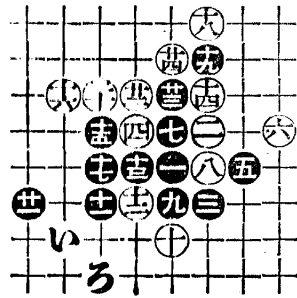
次は(八)の

變化を示す

○第三番の三(白迄)

八の變化「は」の部なり
八の後「い、ろ」と四追勝

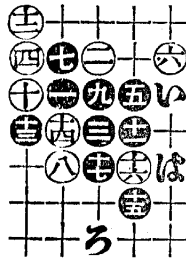




次は八の變化を示す

○第三番の四(▲迄)

八の變化に』の部なり▲にて『い』
又は『ろ、は』の兩勝、小變化は略す

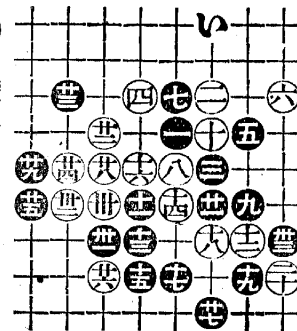


次は八
の變化を
示す

○第三番の五(●勝)

八の變化は』の部なり●大によし
●を『い』に來るも黒に●を占領せ

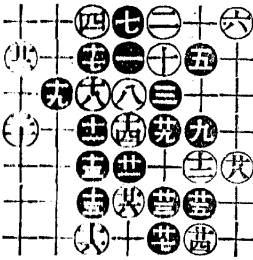
られ致し方なし



次は六の變化を示す

○第三番の六(●勝)

六の變化なり

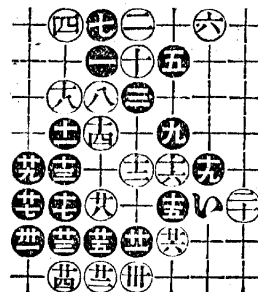


次は六
の變化を
示す

○第三番の七(●勝)

七の變化なり

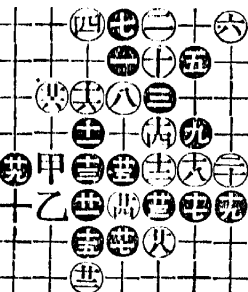
●反對は『い』と打つ



次は十四の變化を示す

○第三番の八(●迄)

十四の變化なり●にて『甲乙』兩勝
●反對は『甲』と打つまでなり
●を中に割り込まば『乙、●甲』の

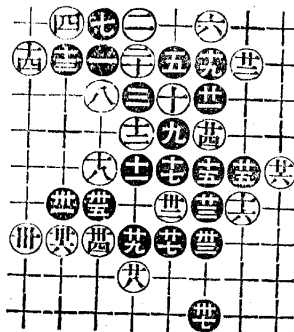


防ぎ手なし、次は十の變化を示す

順に追
詰て勝
つ、大
手は
他に有
力なる

○第三番の九(●勝)

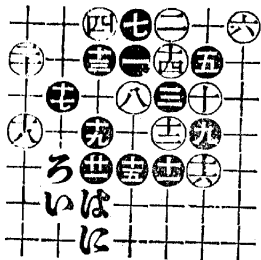
⊕の變なり



次は⊕の變化を示す

○第三番の十(●迄)

⊕の變化なり ⊕にて『い、ろ』又は『は、に』の兩勝 ⊕の小變化は略す



次は⊕の變化を示す

○第四番の一(●迄)

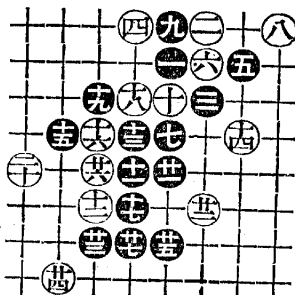
⊕が目錄第廿圖の『ニ』に來れる分 ⊕にて『い、ろ』又は『は、に、ほ、へ』



次は⊕の變化を示す

○第四番の二(●勝)

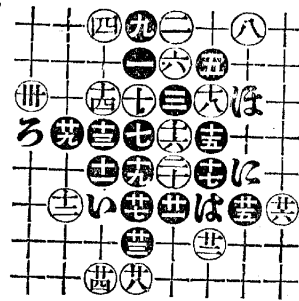
⊕の變化を示す



次は⊕の變化を示す

○第四番の三(●迄)

⊕の變化なり ⊕の後『い、ろ』と四追勝、⊕を『は』に來らば『に、ろ』と引き ⊕に止むれば四追七回勝となる



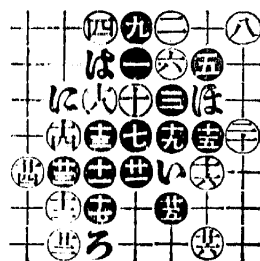
次は⊕の變化を示す

○第四番の四(●迄)

⊕の變化なり ⊕の後『い、ろ』と四追勝

⊕反對は『は、に、ろ』の勝 ⊕を『は』に來らば『ろ、い』より四追勝、又⊕を⊕に來らば⊕⊕⊕

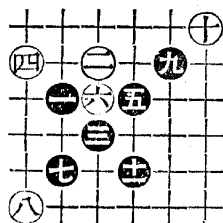
『土』と打つ



次は『土』の變化を示す

○第四番の六(犬迄)

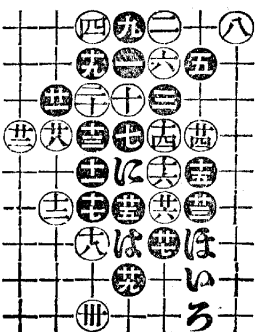
『土』の變化なり『犬』の後『い、ろ、は』の勝『土』を『に』に止むれば『い、犬、は、ろ』と打つ『土』を『は』に止むれば『土』に打ち『土』に防ぐも『土』より四迫となる、犬反對は前局を見よ



次は『六』の變化『ホ』の部を示す

○第四番の五(犬勝)

『土』の變化なり『土』を『土』に來らば『い』の順に打つ『土』を中に止むれば『土』に打ち『土』に止させ次に『ろ、は』の手あり『土』を『土』に防ぐも大差なし



次は『八』の反對を示す

○第四番の七(土迄)

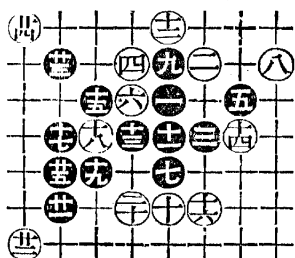
『八』の變化なり『土』の組立にて『土』何れに防ぐも是迄の局面を参照せば勝方を發見するを得べし

分 六が目録第十二圖の『ホ』に來れる

○第五番の一(土勝)

次は『十』

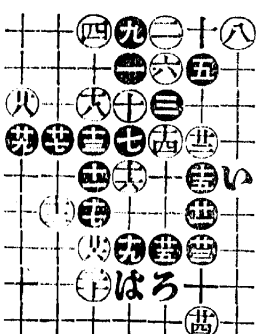
の變化を示す



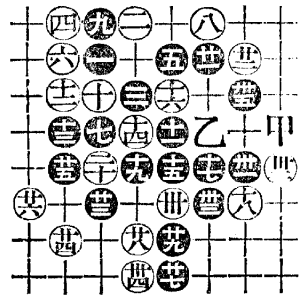
○第五番の二(土迄)

『十』の變化なり『土』にて『甲、乙』兩勝

次は『六』の變化を示す



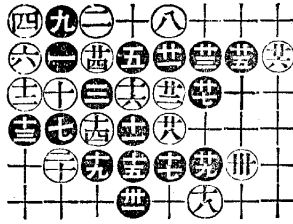
対は『土』迄なり



次は(五)の變化を示す

○第五番の三(五迄)

(五)の變化なり



次は(五)の

變化を示す

○第五番の四(五迄)

(五)の變化なり (五)にて『甲、乙』兩勝

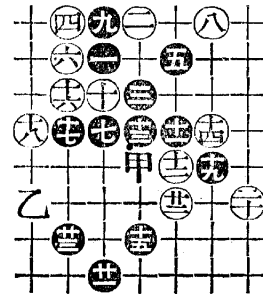
(六)外に手なし

(五)の變

化を猶二

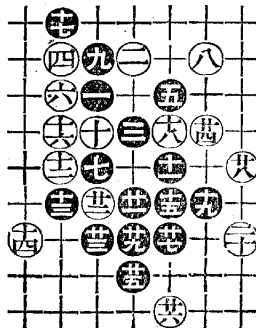
三局を示

す



○第五番の五(五勝)

(五)の變化なり

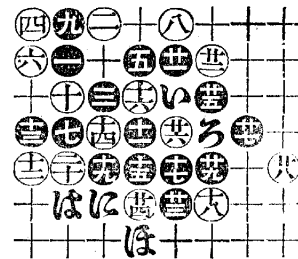


次は(五)の變化を示す

○第五番の六(五勝)

(五)の變化なり (五)を『い』に來らば

『(五)五(五)五』は、に、ほ』の勝



次は(六)

の變化を

示す

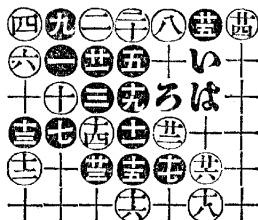
○第五番の七(五迄)

(六)の變化なり (五)の後『い、ろ、は』と

四追勝

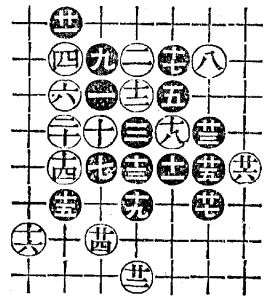
次は(五)の

變化を示す



○第五番の八(五勝)

(五)の變化なり

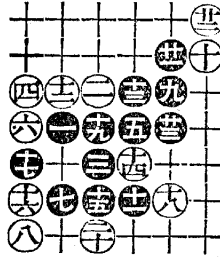


次は 八
の反對を
示す

○第五番の九(白勝)

八の反對なり

次に 七
の變化を
示す



○第五番の十(白迄)

七の變化なり
七の後「い、ろ、は、」
の四追勝 七を「は」に來らば「い」
に 七を打つべし

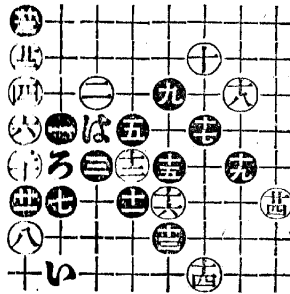


次は 九
の變化を
示す

○第五番の十一(白迄)

九の變化なり
九の後「い、ろ、は、」
と四追勝

次に 六
の變化
「へ」の分
を示す



○第六番の一(白迄)

六が目録第十二圖の「へ」に來れる
分 六反對は「い」と打つまで



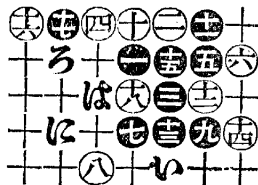
次は 十
の反對を
示す

○第六番の二(白迄)

十の反對なり
十の後「い、ろ、は、」
に「の四追勝

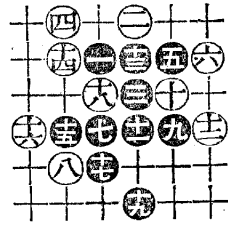
次は 十の

變化を示す



○第六番の三(白勝)

十の變化なり

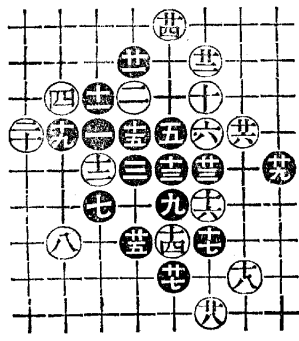


次も
⑩の

變化を示す

○第六番の四(我勝)

⑩の變化なり

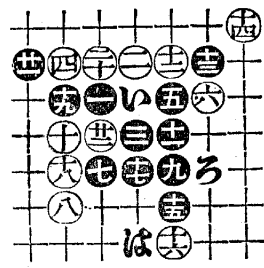


次は
⑩の變化を示す

○第六番の五(世迄)

⑩の變化なり
⑩の後『い、ろ、は』

の四追是にて六番は終る



次は
⑥の

變化

の『ト』の部

を示す

○第七番の一(世勝)

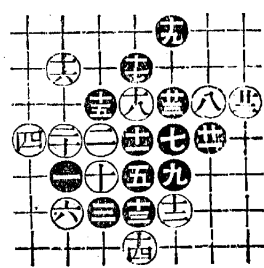
⑥が目錄第十二圖の『ト』に來れる

分

次は
⑤の

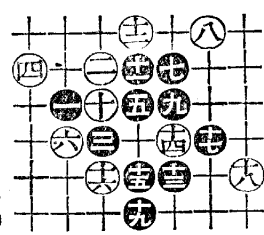
變化を

示す



○第七番の二(我勝)

⑤の變化なり



次は
⑩の

變化を示す

○第七番の三(世迄)

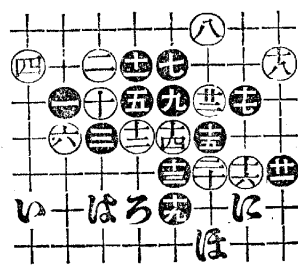
⑩の變化なり

⑩の後『い、ろ、は』

次は
⑧の

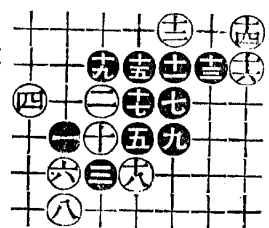
變化を

示す



○第七番の四(我勝)

⑧の反對なり、其の他の小變化は略す、是にて七番は終る



次は六の
變化「チ」の
部を示す

○第八番の一(子迄)

六が目録第三圖の「チ」に來れる分

六の後「いろ」

の四追勝

「い」は等に來

らば「に」に引き

て跡四追となる

次は十の反對

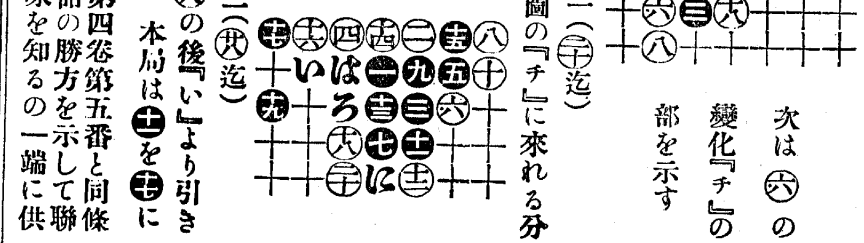
を示す

○第八番の二(犬迄)

十の反對なり

犬の後「い」より引き

始め四追六回勝



す六反對は「り、せ」と打ちて六又
は「せ、と、ち」の兩勝

次は十

の變化を

示す

○第八番の三(世迄)

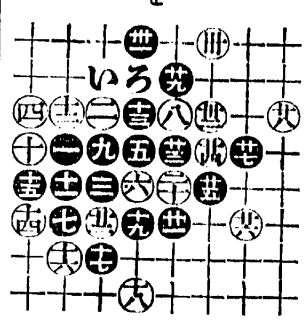
十の變化なり世の後「い、ろ」の四

追勝

次は世

の變化を

示す



○第八番の四(世迄)
世の變化なり世にて何れに止むる
も四追勝

反對

は四追

反對

は略す

十の

に來れる

は打試み

られよ

次は六の變化を示す

○第八番の五(犬勝)

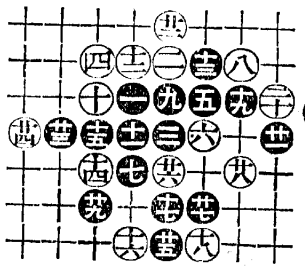
六の變化

なり犬の

反對は略す

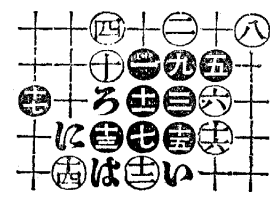
次は十の

變化を示す



○第八番の六(●迄)

①の反對なり ●にて『い、ろ』又は『は、に』の兩勝



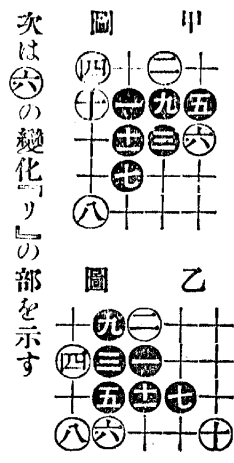
次は ⑧ の反 對を示す

○第九番(説明)

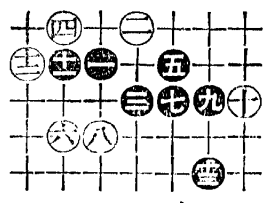
⑥の目錄第①圖の『リ』に來れる分 本局は⑥が③及び⑤の聯に構はず 防ぎたるは引けよとの意なるも黒引 かすして七珠を下さば白の陰謀畫餅 となり容易なる黒勝に達するを以て 參考の爲め三局を示す

○第八番の七(説明)

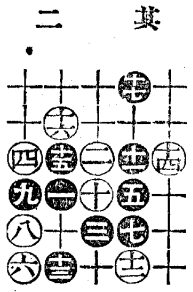
⑧の變化なり 本局即甲圖は乙圖と 同し聯珠眞理第四卷を參照せられた し



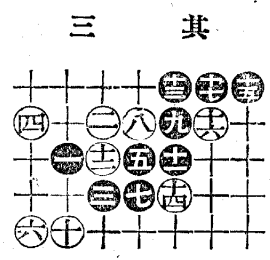
其



其

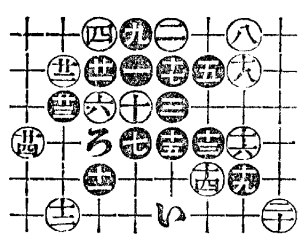


其



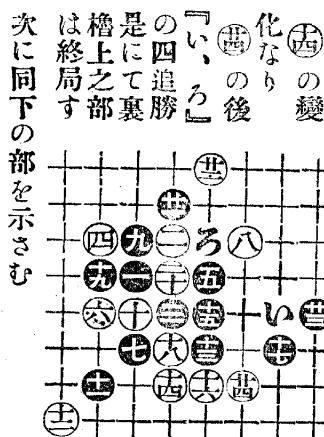
○第十番の一(●迄)

⑥が目錄第十二圖『ヌ』に來れる分 ④の後『い、ろ』の四追勝本局に第五 番と大同小異にて未だ示さざるもの ④變化を多少研究すれば足る



次に ④ の 變化一局を 示す

○第十番の二(曲迄)

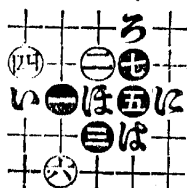


第一編 第十一章 裏櫓

下之部

○四の斯く止めたるに對し、五の打方を裏櫓と稱す、其の勝方は即上之部に詳説せり、本局は目録第十二圖の

(目録第三十圖)



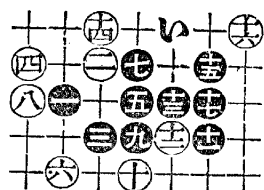
○六の變化十一ヶ所の中『ル』に來れる分を抽出せる者なり、七を下す時

八の來る所『い』より『ほ』迄五ヶ所を順次に打す

○第一番(吉勝)

八が目録第十三圖の『い』に來れる

分、十反對は吉より四追勝、四反對は『い』に打ちて兩勝となる



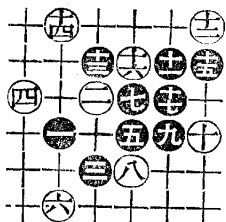
次は八の

分

變化『ろ』の

部を示す

變化を示す



○第二番(吉勝)

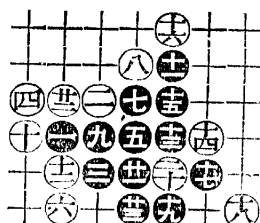
八が目録第十三圖の『ろ』に來れる

分、十反對は吉より四追勝、十反對は『い』に打ちて兩勝となる

○第三番の二(曲迄)

十の變化なり、吉にて『甲、乙』兩勝

六反對は『吉、い』と打つ



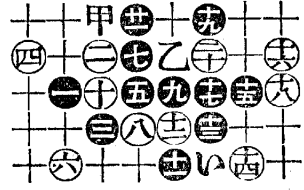
次は八の

變化『は』の

部を示す

○第三番の二(吉勝)

八が目録第十三圖の『は』に來れる



次は(白)の變化を示す

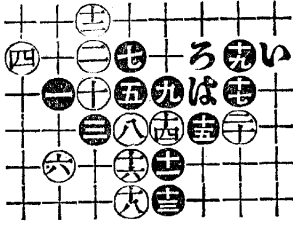
○第三番の三(白迄)

(白)の變化なり (白)の後『い、ろ、は』と

四追勝 (大)反對は(白)へ打つべし

次は(白)の

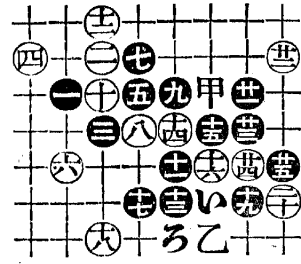
變化を示す



○第三番の四(白迄)

(白)の變化なり (白)にて『甲、乙』兩勝

(大)反對は『い、ろ』と打つ (大)を(白)に
来らば『甲、い、乙』と打つ



次は(白)の變化を示す

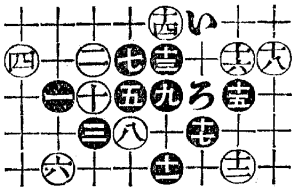
○第三番の五(大迄)

(白)の變化なり (大)より『い、ろ』と四

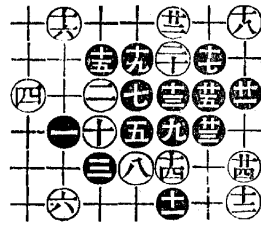
追勝 (大)は他に來るも詮なし

次は(白)の變

化を示す



○第三番の六(白勝)
(白)の變化なり



次は(白)の變化を示す

○第三番の七(白迄)

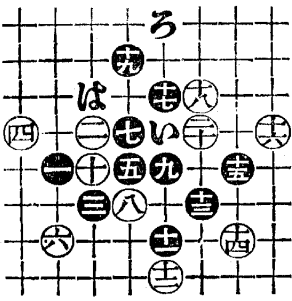
(白)の變化なり (白)の後『い、ろ、は』の

四追勝

次は(白)

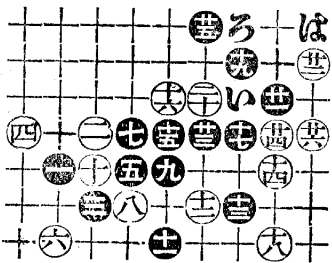
の變化を

示す



○第三番の十三(四迄)

○の變化なり(其の後「い、ろ、は」と四追勝(大)外に手なし)



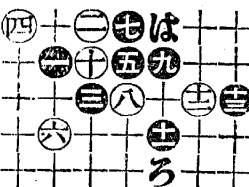
次は(大)

の變化を

示す

○第三番の十五(三迄)

○の變化は以上の外皆容易なるを以て説明にて足れり、即ち(大)



次は(大)の變化「に」の部を示す

「は」と打ち、(大)「ろ」に來らば「は」と打ち、(大)「ろ」に來らば「ろ」に打たば白致方なし

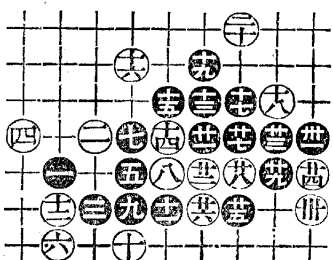
○第四番の一(三勝)

(八)が目録第十三圖の「に」に來れる

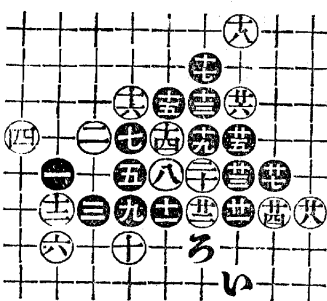
分(大)を(大)に下すも勝あり

(大)を(大)に打ち勝に達するも珠數多し

次は(大)の變化を示す



○第四番の二(大迄)



(大)の變化なり(其の後「い、ろ」と四追勝)次は(大)の變化を示す

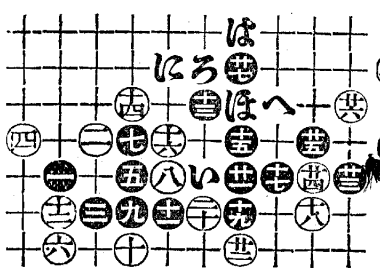
○第四番の三(三勝)

(大)の變化なり(大)を「ろ」に來らば

「い、ろ、は」に「と打ち跡四追とな

る、又(大)を(大)に止むれば「に、は、へ」との順なり

次は(大)の變化を示す



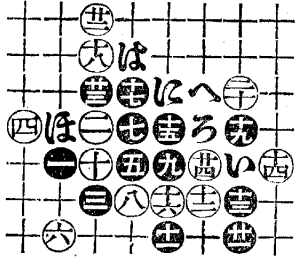
○第三番の十四(四迄)

(大)の變化なり(其の後「い、ろ、は」に「と打ち跡四追とな

る、又(大)を(大)に止むれば「に、は、へ」との順なり

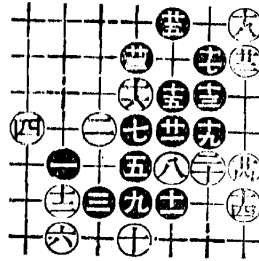
次は(大)の變化を示す

(大)の變化を示す



○第四番の四(●迄)

●の變化なり ●にて白致し方なし

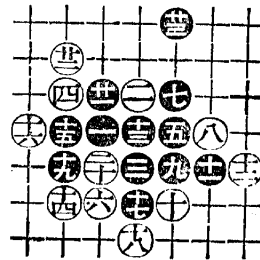


次は●
の變化を
示す

●の變化

○第四番の五

△三十二珠



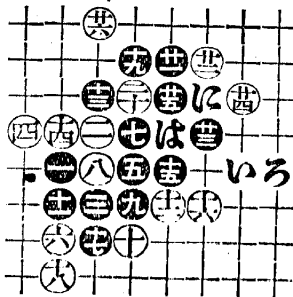
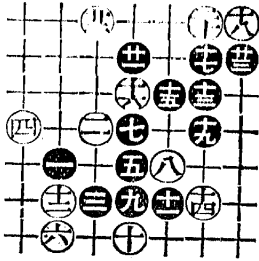
○第五番の一(●迄)

●が目録第十三圖の『ほ』に來れる

分●の後『い、ろ、は』にの四追勝

●反對は四追

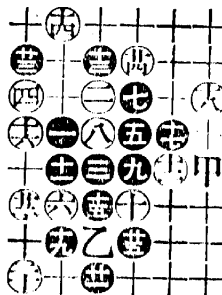
次は●
の反對を
示す



次は●
の變化を
示す

○第五番の二(●迄)

●の變化なり ●にて『甲、乙』兩勝
となる

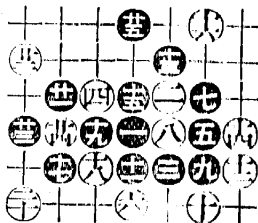


次は●
の變化を
示す

●の變化なり、其他●の變化は打
試みられたし

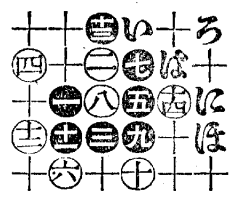
○第五番の三(●勝)

次は●
の反對を示す



○第五番の四(山迄)

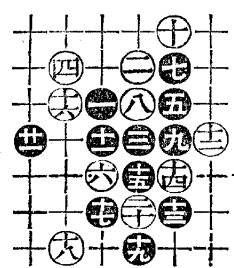
④の反対なり ④の後『い、ろ、は、に、は』の順にて勝つ



次は④の變
化を示す

○第五番の五(山勝)

④の反対なり 是にて第一編終り



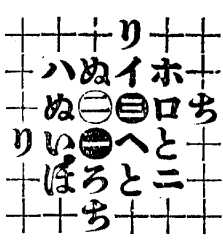
次に第二珠の直接に來りたる分即直止めを第二編として示す

第二編 直止花月

●に對し○の直接に止めたるを直止と云ひ、●の形を花月と稱す、④

を『と』に來らば第一編第八章小桂馬と同じく、『ち』に來らば同第二章二間夾、『り』に來らば第六章の横桂馬『ぬ』に來らば第三章附立と同條理に

(圖四十第録目)



歸すべし
又圖中の『い、ろ、は』は夫々『イ、

ロ、ホ』に同じき事を會得せられよ、然る時は圖中の『イ、ロ、ハ、ニ、ホ、ヘ』の六ヶ所を説明せば足らん
以下順次に章を分ちて解説せん

△目録

イ、第十二章 同引

ロ、第十三章 直夾

ハ、第十四章 斜止

ニ、第十五章 直飛

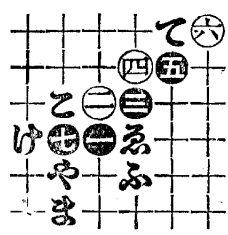
ホ、第十六章 梯子

ヘ、第十七章 切違

第二編 第十二章 同引

④の止め方を同引と云ふ、本局は⑦迄圖の如く打進む、若し⑥反對ならば『て』に⑦を打たば同一なり

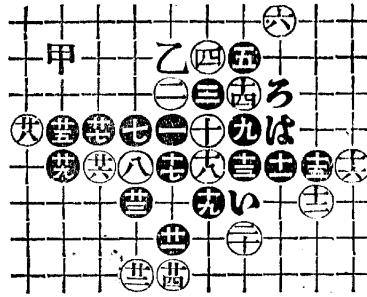
(圖五十第録目)



⑦に對し⑧の來る所『や、ま、け、ふ、こ、る』の六ヶ所を一番より六番に分ち説明す

○第一番の一(芳迄)

⑧が目録第十五圖の『や』に来れる
分⑥にて『甲、乙』兩勝④を『い』に
來れるは⑥、ろ、は』より四追勝



次は⑤
の變化を
示す

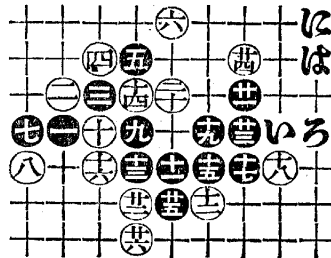
○第一番の二(芳迄)

⑤の反對なり ⑤の後、い、ろ、は、
に』の四追勝
⑤反對は⑤より四追

次は⑩

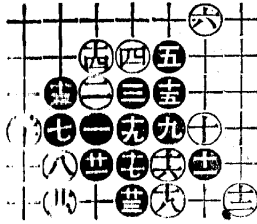
の變化を

示す



⑩の變化なり

○第一番の三(吉勝)



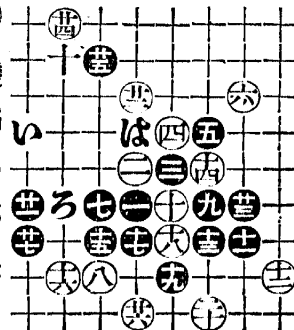
次は⑧の
變化『ま』の
部を示す

○第二番(吉迄)

⑧が目録第十五圖の『ま』に来れる
分⑤にて『い』又は『ろ、は』の兩勝

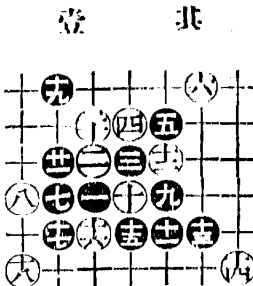
⑤を他に來らば⑤より四追勝とな
る

次は⑧の變化『け』の部を示す



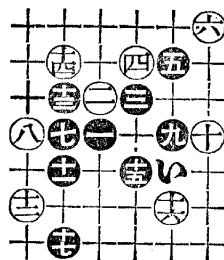
○第三番

⑧が目録第十五圖の『け』に来れる
分⑨にて決せるなり、念の爲め三
局を示す、變化は自ら打試むべし

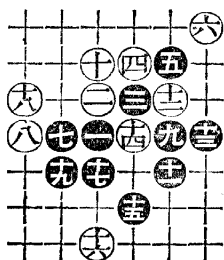


①を「い」に来るも同じ

其 貳

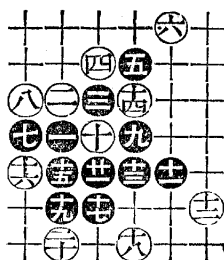


其 參



○ 第四番 (圭迄)

⑧が目録第十五圖の『ふ』に来れる
分 ⑤に至り第一編第二章二間夾と
同一に歸す

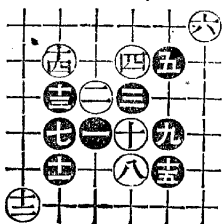


○ 第五番の二 (世勝)

④の變化なり
『七、ろ、六』と勝つ

⑧が目録第十五圖の『こ』に来れる
分 ⑥を⑤に来れるも同じ

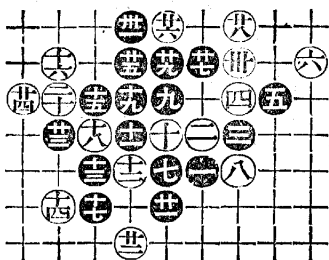
○ 第五番の一 (世勝)



次は ⑧の
變化『こ』を
示す

次は ④
の變化を
示す

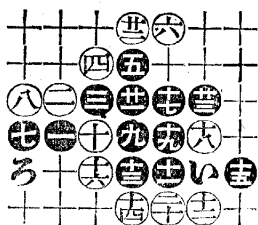
變化を示す



次は ⑤
の

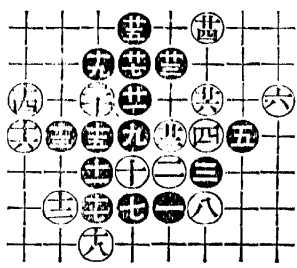
⑧が目録第十五圖の『ろ』に来れる
分 今後容易なる變化は示さず
⑦を夏止にすれば四追勝

○ 第六番の一 (世勝)



次は ⑧の
變化『ろ』の
部を示す

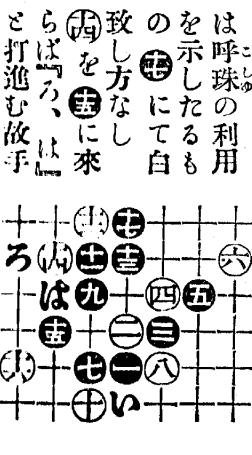
○第六番の二(●勝)
 ⑤の變化なり



次は⑩の
 變化を示す

○第六番の三(●迄)

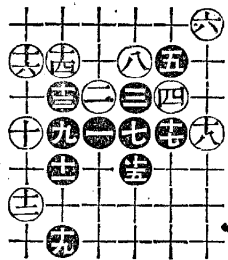
⑩の變化なり、普通の打方は⑨を
 ⑩へ延びて次に『い』に打つ、本局



は呼珠の利用
 を示したるもの
 ⑤にて白
 致し方なし
 ⑨を⑤に來
 らば『ろ、は』
 と打進む故手
 なし、⑤が黒の生命なり、是にて
 第十二章同引は終る次は直夾を示す

第二編 第十三章 直夾

④の止め方を直夾と云ふ、⑦迄打
 進まば⑧何れへ來るも勞せずして
 追詰となる、念の爲めに左に一局を
 示す直夾は斯くの如く簡單に終れり

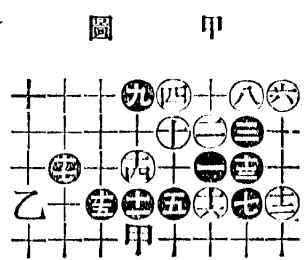
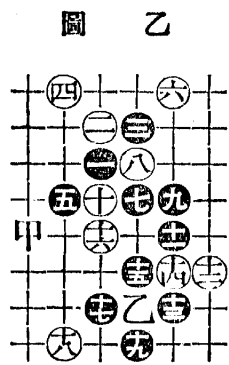


次は斜止を示す

第二編 第十四章 斜止

④の止め方を斜止と云ふ、⑦と下
 次は直飛を示す

す時は⑥に策なし、參考として二
 局を示す、甲圖⑤は含み追手なり、
 甲圖は⑤にて、乙圖は⑥にて何れ



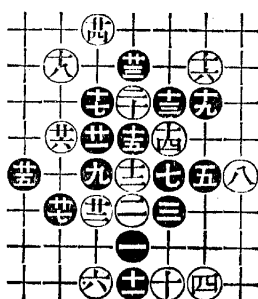
第二編 第十五章 直飛

④の止め方を直飛と云ふ、本局は
 ④緩きも後手の策としては面白し

⑦を⑨に應ずる差支なきも安全の分を示す

○第一番の一(⑤勝)

⑧は急所なり



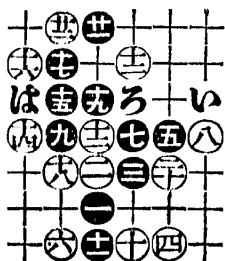
次は⑤の變化を示す

○第二番の二(⑤迄)

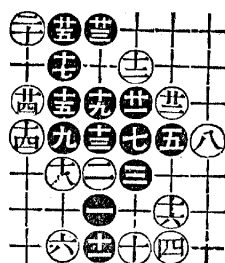
⑤の變化なり

⑤の後「い、ろ、は」の四追勝

次は⑤の變化を示す



○第一番の三(⑤勝) ⑤の變化なり



次は⑧の變化を示す

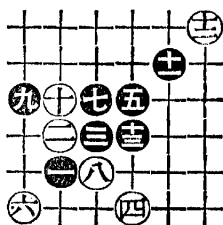
○第二番(⑤迄)

⑧の變化なり ⑤迄圖の如く打進む

時は聯珠眞理第三卷第二十五番と同一に歸す

次は⑧の變化を示す

○第三番(⑤勝)



⑧の變化なり 本局も前局と同形

なり ⑨の變化種々あれば聯珠眞理

を参照せ

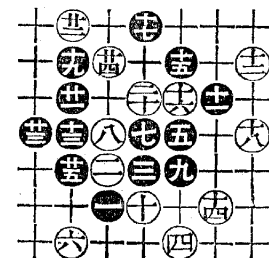
られたし

是にて直

飛は終る

次に梯子

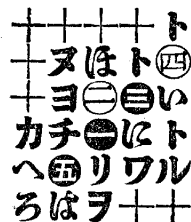
を示す



第二編 第十六章 梯子

④の止め方に對し黒は⑤を圖の如く打つ之を梯子と云ふ ⑥の來る所『い』より『へ』までの六ヶ所を順次に

(圖六十第録目)



説明す 其他は 皆是迄 の局面 と同一

に歸す、『ト』は次に記す第一番にて知るべし、次に既に講述せる局面と

同一なる分の目録を示し、初心者
便に供す

△目録

『い、ろ、は、に、は、へ』は次に講述す

『ト』は 本章 第一番を見よ

『チ』は 第十二章 同引を見よ

『リ』は 第十三章 直夾を見よ

『ヌ』は 第十四章 斜引を見よ

『ル』は 第十五章 直飛を見よ

『ヲ』は 第二章 二間夾を見よ

『フ』は 第八章 小桂馬を見よ

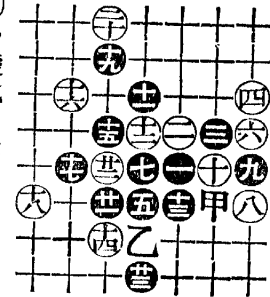
『カ』は 第六章 横桂馬を見よ

『ヨ』は 第三章 附立を見よ

○第一番の一(世迄)

⑥が目録第十六圖の『い』に來れる

③にて『甲、乙』兩勝

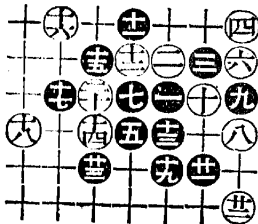


次は④の變化を示す

○第一番の二(世勝)

④の變化なり

次は⑧の

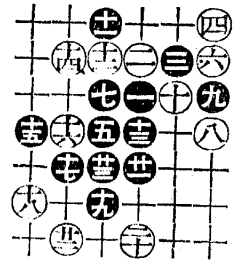


變化を示す

○第一番の三(世勝)

④の變化なり

⑧他に來るは皆弱し



次に參考
局面を示
す

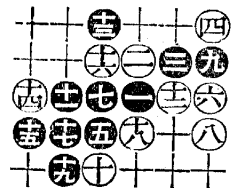
○參考其一(世勝)

⑥の變化を參考として示す

如何に防がんとするも③にて致し
方なし

次に⑥の變

化一局を示す



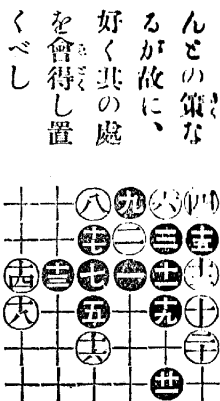
○參考其二(世勝)

⑥の變化なり 本局は實戰上多く用
ゆる手段にして⑥の時③を手柏子
に掛け③へ止めさせて白が③の場

所を占領し黒をして三々に苦しませ

○第二番の二(九勝)

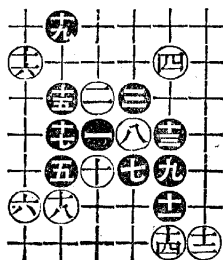
○西の變化なり



次は八

の變化を

示す



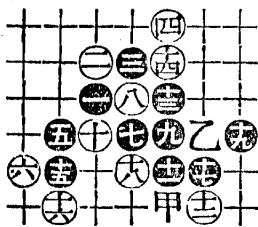
六は他に手段なし
『ろ』の部を示す

次は六の變化

第二番の一(九迄)

六が目録第十六圖の『ろ』に來れる

分 九にて『甲、乙』兩勝

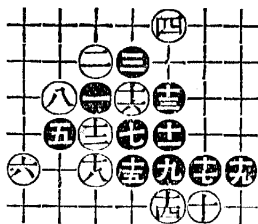


次は西の

變化を示す

八の變化なり

○第二番の四(七勝)



次は八の

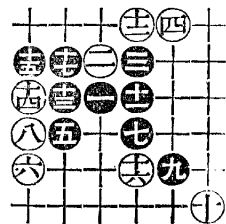
變化を示す

八の變化なり 七にて白防ぎ方なし

○第二番の三(九勝)

六が目録第十六圖の『は』に來れる
分 六反對は『い、九、ろ、六』の勝

○第三番の一(七勝)



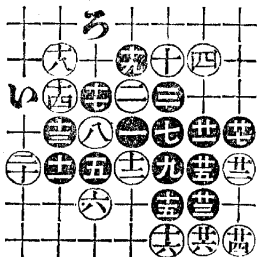
次は六の

變化『は』の

部を示す

次は十
の變化を

示す

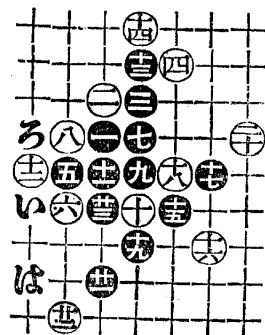


○第三番の二(七勝)

十の變化なり、 七反對は『土、い、

ろ、七、は』の勝 八を七へ來らば

『ろ、い、七、九、九』の勝



次は八の變化を示す

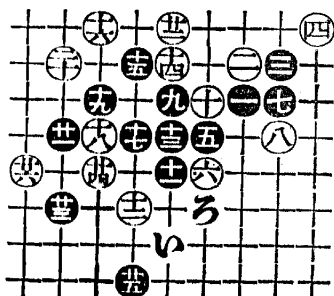
○第三番の三(共迄)

八の變化なり 共の後『い、ろ』と四
追勝

次は六

の反對を

示す



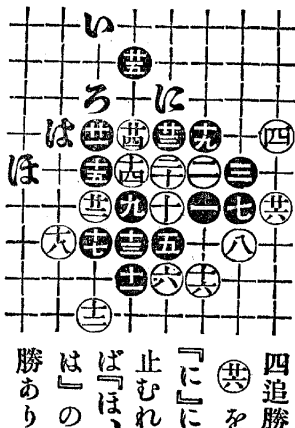
○第三番の四(共迄)

六の反對なり 共の後『い、ろ、は』と

四追勝

打たば六を防ぐも七の時飛ぶ手段ありて意味深く従つて七如何に止むるも効なきを次に示す

○第三番の六(共勝)



『に』に止むれば、は、の勝あり

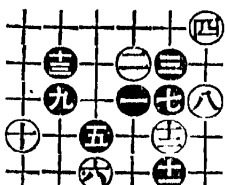
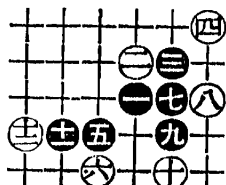
次は八の變化を示す

○第三番の五

八の變化なり 九を甲圖の如く打進む時は混戦こんせんの形を生ず、乙圖の如く

甲圖

乙圖

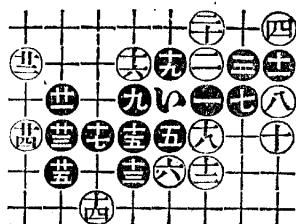


次は十の

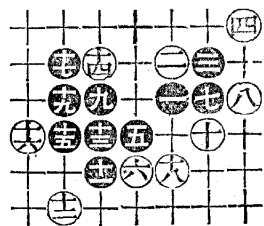
變化を示す

○第三番の七(共勝)

十の變化なり 本局は七を十に延びて、次に七に打つ方初心者には譯



り早し、別に打方には變りなし



次は八の

變化を示す

○第三番の八(半勝)

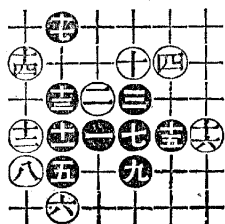
八の變化なり

十反對も同一なり

次は六の

變化にの

部を示す



○第四番

六が日録第十六圖の『に』來れる分

七を圖の如く打つ時は八の來る所

六ヶ所を説明せば足らん

△爾今容易なる變化は讀者諸君の力

量の上達と

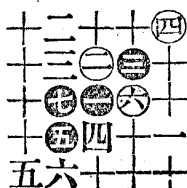
共に省略を

なし自ら打

試ましめ以

て局面の進行を速かならしむる事に

したり



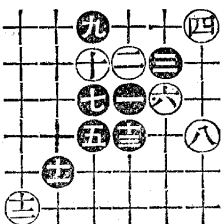
○第四の番一(半迄)

八の變化なり 九にて聯珠眞理押へ

の部第二十五番と同一の珠形に歸す

次は八の

變化を示す

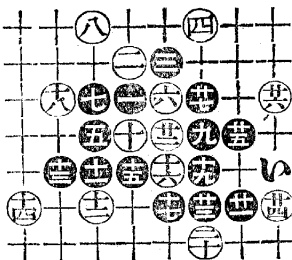


○第四番の二(半勝)

八の變化なり 十を五に來らば『五』

八の變化なり

『五』の勝 十の變化は略す



次は八

の變化を

示す

○第四番の三(半迄)

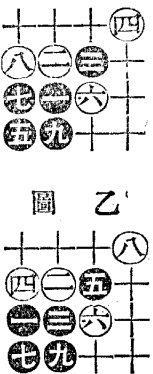
八の變化なり 九にて甲圖は乙圖と

同じく聯珠眞理押への部と同一の珠

形

次は八の

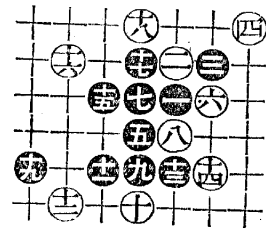
變化を示す



○第四番の四(半勝)

次は八の變化を示す

八の變化なり

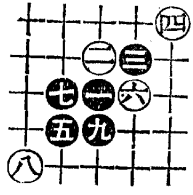


次は八の
変化を示す

○第四番の五(九迄)

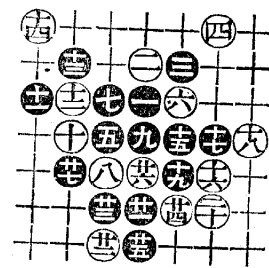
八の変化なり
九にて跡容易に勝
に達す、
十の来る所様々あれど略
す、前後の局面を参照せられよ

次は八の
変化



○第四番の六(七勝)

八の変化なり



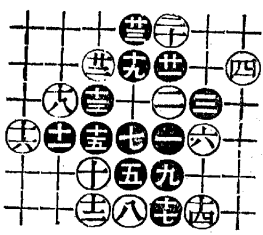
次は土
の變化を
示す

○第四番の七(七勝)

土の變化なり

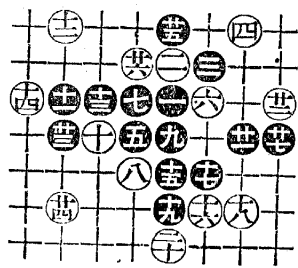
次は土の

變化を示す



○第四番の八(七勝)

土の變化なり



次は六の
變化「は」の
部を示す

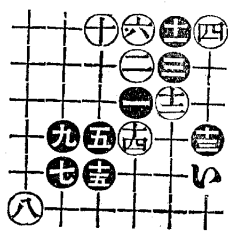
○第五番(七迄)

六が目錄第十六圖の「は」に來れる
分九は妙珠なり、七の呼珠にて跡
容易「四」「い」なるも同様、十より
迄の防ぎは此場合外になしと知
るべし

次は六の

變化「へ」の

部を示す



○第六番(七迄)

所を打示す

○第六番(七迄)
が目録第十六圖の『へ』に来れる
分 七と下さば八を『い、ろ、は、に』

片假名の『イ、ロ、ハ、ニ、ホ』に来るも
向き方の異なるなるのみ

○第一番の二(六勝)
十の變化なり

の内に來るも

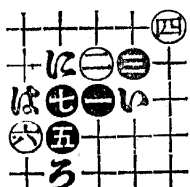
容易に追詰の

勝を生ずるが

故に自ら打試

むべし、是に

て梯子は終局す、次は切違を示す



第二編 第十七章 切違

○四の止め方を切違と云ふ、本局は

五を『い』に打つも勝あれど圖の如

く打つが巧

妙なり

五の組立

に對し六

(目録第七十圖)



の來る所『い、ろ、は、に、ほ』の五ヶ

十ヶ所を順次に示す

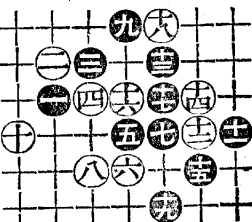
○第一番の二(六勝)

八の變化『ヒ』の部なり

止むれば『六』と打ち四追

八變化『フ』の部なり
ろ、は、に』の四追勝
十反對は一番

○第一番の三(七迄)



次は八の

變化を示す

十ヶ所を順次に示す

○第一番の二(六勝)

八の變化『ヒ』の部なり

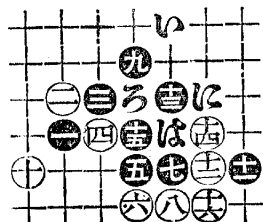
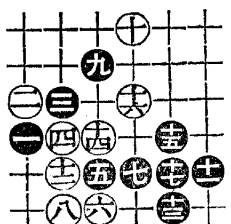
止むれば『六』と打ち四追

次は十の

變化を示す

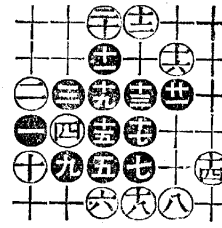
次は八の

變化を示す



○第一番の四(世勝)

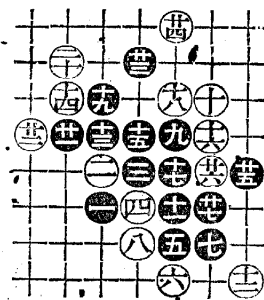
八の變化『ミ』部なり
六の反對は直
に四追勝あり



次は八の變
化を示す

○第一番の六(世勝)

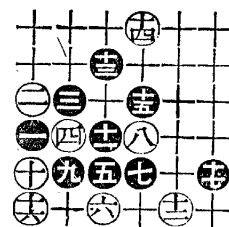
八の變化『イ』の部なり
六反對は
『六六』の順
七反對は『七七』と打



次は八
の變化を
示す

○第一番の八(世勝)

八の變化『ナ』の部なり



次は八の
變化を示す

○第一番の九(世勝)

八の變化『ヤ』の部なり
西反對は

『い』と打つ

○第一番の七(世勝)

八の變化『ム』の部なり
七を他に防

ぐも詮なし

反對は

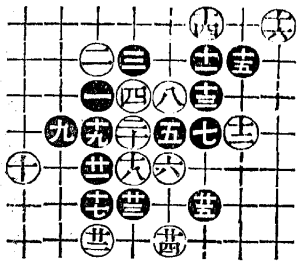
七にて

白に防ぎ方

なし

次は八の

變化を示す

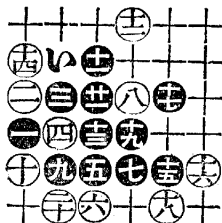


次は八の

變化を示す

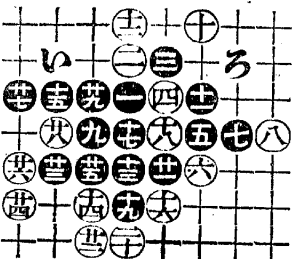
○第一番の十(世迄)

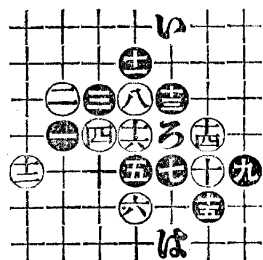
八の變化(コ)の部なり
六の後『い、ろ、は』と四追勝



次は八の變化を示す

八の變化『ヨ』の部なり
六反對は
『い、ろ』と打つ
反對は
『い、ろ』の順にてよし





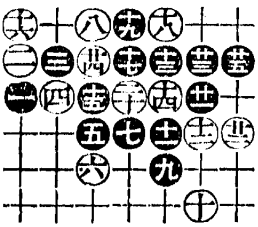
次に
八
の變化を
示す

○第一番の十一(黒勝)

八の變化「ト」の部なり

次は
十の

變化を示す



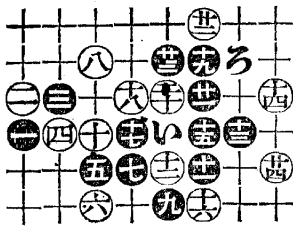
○第一番の十二(白迄)

十の變化なり
西の後「い、ろ」と四

追勝
土の手段趣味津々

化は何れも容易に勝つ
肉反對も同

じく
と打つ



次は
土の

變化を示す

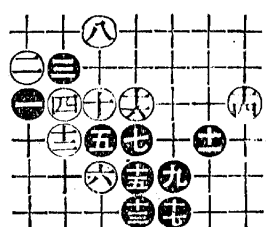
○第一番の十三(黒迄)

土の變化なり、
にて白止め様なし

次は
六の

變化「ろ」の

部を示す



○第二番の一(白迄)

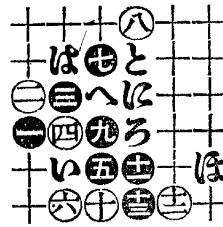
六が目錄第十七圖の「ろ」に來れる

分
「い」ならば「ろ、は」にて兩勝

「ろ」に來らば「い、に、は」にて兩勝

「は」にて兩勝

「ろ」にて兩勝



次は
十の

變化を示す

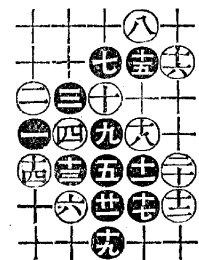
○第二番の二(黒勝)

十の變化なり

次は
八

の反對を

示す



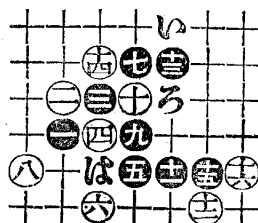
○第二番の三(白迄)

八の反對なり

①の後「い、ろ、は」の四追勝

次は⑤の

變化を示す



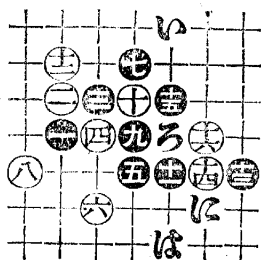
○第二番の四(⑤迄)

⑤の反對なり
⑥の後「い、ろ、は、

に」の四追勝

次は⑩の

變化を示す



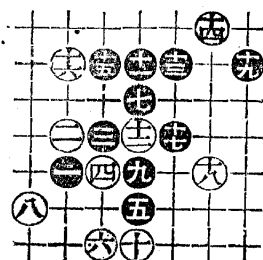
○第二番の五(⑩勝)

⑩の變化なり

次は⑥の

變化「は」の

部を示す



○第三番の一(⑩勝)

⑥の目録第十七圖の「は」に來れる
分 ⑤にて必勝の形

⑧の反對なり
⑨の呼珠に對し⑩

の來る所
「い」より⑧

「か」に至
る迄順次

に示す
⑩の「い」の部なり
⑥を「い」に來

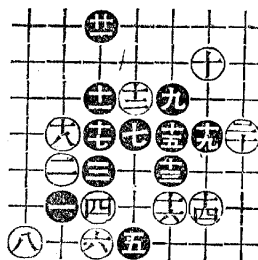
○三番「い」の部(⑥勝)

⑩の「い」の部なり
⑥を「い」に來

○第三番の二(⑥勝)

⑤の變化なり
⑧無理なれば⑤の

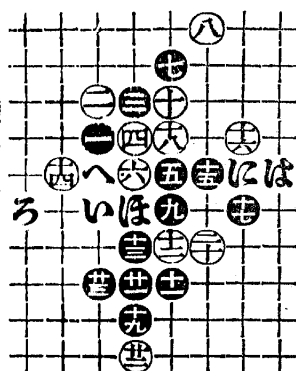
防ぎなきは當然なり



次は⑧
の反對を
示す

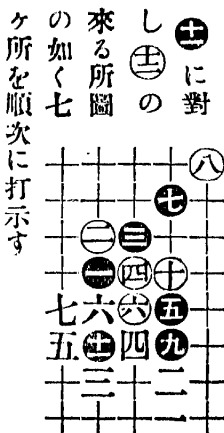
○第三番の初

らば『**三**』の勝 **六** 反對は
七、は、**六**、に』の勝 **七**を**六**へ來ら
ば『い、は、へ』にて勝



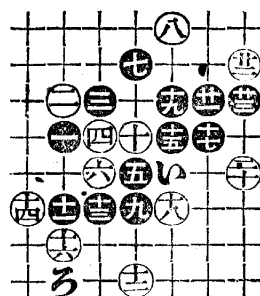
次は**七**の變化を示す

○第三番の『ろ』の部



七に對 **八**
七の
來る所圖
の如く七
ヶ所を順次に打示す
○第三番『ろ』の部其一(『**三**』勝)
七の變化なり
六反對は『い、**六**、
七』の變化なり

ろの勝

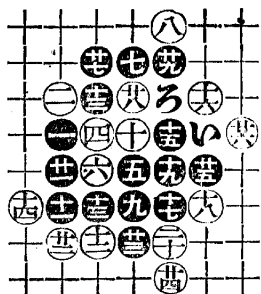


次は**七**
の變化を
示す

○第三番『ろ』の部其二(『**六**』勝)

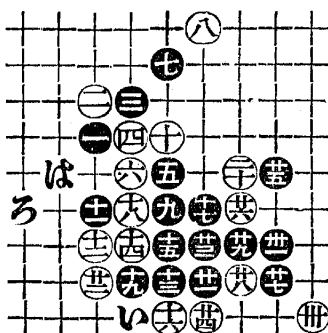
七の變化なり **六**反對は『い』に打
ち『**七**』に止めさせ『ろ**六**』迄

次は**七**
の變化を
示す



○第三番『ろ』の部其三(『**七**』勝)
七の變化なり
七反對は『**三**、い、
七』の變化なり

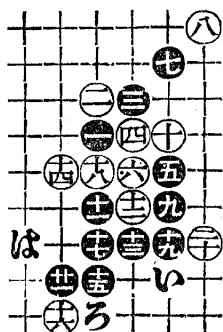
『**七**、ろ』の勝 **六**を『は』に來るも大差
なし



次は**七**の變化を示す

○第三番『ろ』の部其四(『**七**』迄)

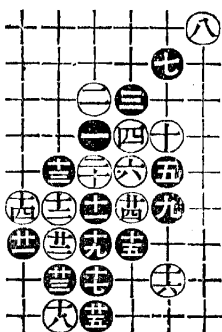
七の變化なり **七**にて『い』又は『ろ、
は』の兩勝



次は
七の
變化を
示す

○第三番『ろ』の部其五(世勝)

世の變化なり
大反對同じ打方に
て宜し

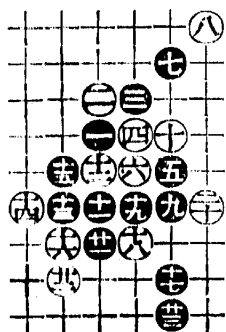


大は世の變化を示す

○第三番『ろ』の部其六(世勝)

世の變化なり
大を中に止むれば

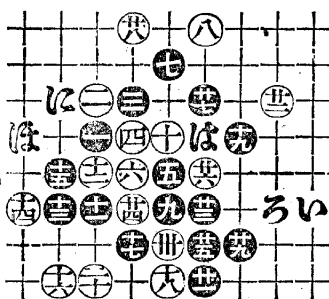
『世大世』より四追



次は世の變化を示す

○第三番『ろ』の部其七(世迄)

世の變化なり
世の後『い、ろ』の
四追勝 世の防ぎ大に宜し
世を
世に來らば『大、は、に、は』の勝



次は世

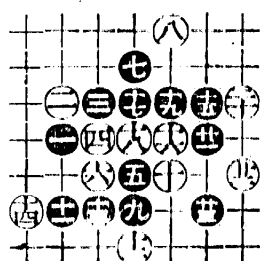
の變化

○第三番『は』の部

世の變化
『は』の部な

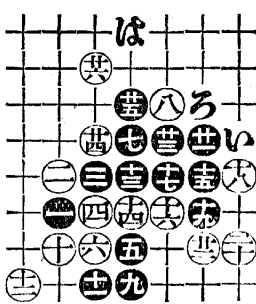
變化

次は世



○第三番『に』の部(世迄)

世の變化『に』の部なり
世の後『い、ろ、は』の四追勝



次は世

の變化を

示す

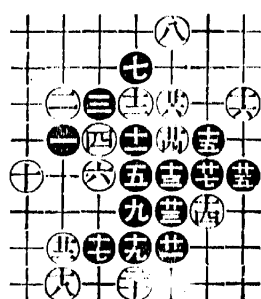
○第三番『は』の部(世勝)

世の變化『は』の部なり

次は世

の變化を

示す



○第三番「へ」の部(廿迄)

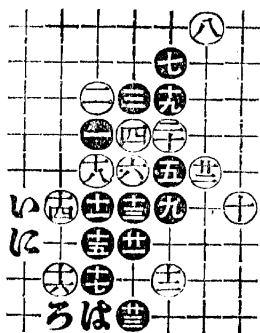
⑩の變化「へ」の部なり 廿にて「い」

又は「ろ、は」の兩勝 廿反對は「に」

に見せて容易の勝 廿他に來るは何

れも弱し、 ⑩の目的は廿の防ぎを

せん支度したくに外ならず



次は⑩の變化を示す

○第三番「と」の部(先勝)

⑩の變化「と」の部なり

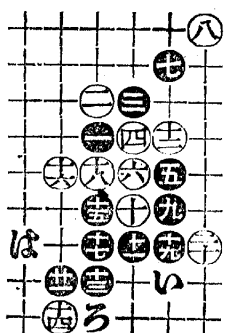


次は⑩の變化を示す

○第三番「ち」の部(廿迄)

⑩の變化「ち」の部なり

廿にて「い」又は「ろ、は」の兩勝



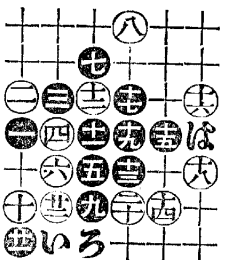
次は⑩の變化を示す

○第三番「り」の部(廿迄)

⑩の變化「り」の部なり 廿の後「い、

ろ」と四追勝 廿反對は「大、大、は」

の手あり



次は⑩の變化を示す

○第三番の「ぬ」の部(廿迄)

⑩の變化「ぬ」の部なり 廿にて「甲、

乙」兩勝 廿を「い」に來らば「ろ」と

止め置かば跡黒は廿廿及び廿

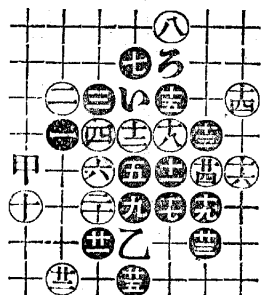
の順ありて樂地多く容易に勝に

達するが故に白も手の出し様なし變

化は略す

次は⑩

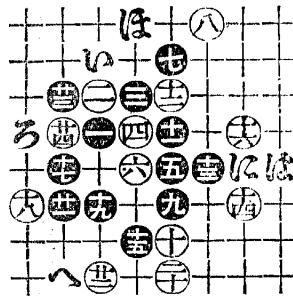
の變化を



甲 乙

○第三番「る」の部(𠂔迄)

⑩の變化「る」の部なり 𠂔の後「い、ろ」と四追勝 𠂔反對は「六、は、に、𠂔」 𠂔反對は「は、ろ、𠂔」 𠂔反對は「𠂔へ」にて兩勝 𠂔の追手は妙珠なり



次は ⑩
の變化を
示す

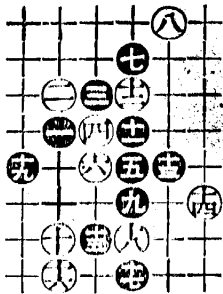
○第三番「を」の部(𠂔迄)

⑩の變化「を」の部なり 𠂔の後「い、ろ、は、に」の四追勝 𠂔の追手よし 𠂔の防ぎは何れも止むを得ざる場合なり、 𠂔を 𠂔へ來らは「ろ」の部を見よ

次は ⑩の變化を示す

○第三番「わ」の部(𠂔勝)

⑩の變化「わ」の部なり
⑩弱ければ變化なしにて勝つ

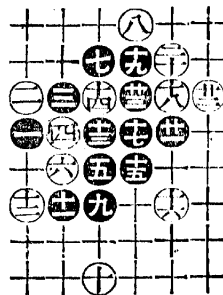


次は ⑩
の變化を
示す

○第三番「か」の部(𠂔勝)

⑩の變化「か」の部なり 𠂔を 𠂔に來らば 𠂔 𠂔の順にてよし

次は ⑥
の變化を
示す



○第四番

⑥が目録第十七圖の「に」に來れる

分 ⑦に對し

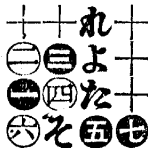
⑧の來に所

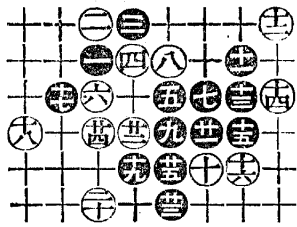
「よ、た、れ、

そ、つ」の五ヶ所を示す

○第四番の一(𠂔勝)

⑧の變化「よ」の部なり

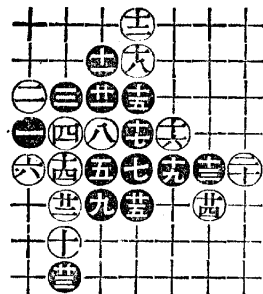




次は
の變
化を示す

○第四番の二(大迄)

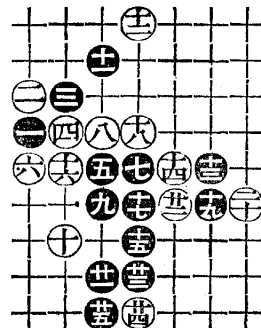
⊕の變化なり
大の後『い、ろ、は、
に、ほ』と四追勝



次は 大
の變化を
示す

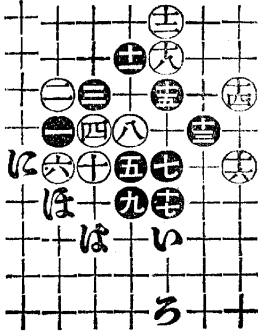
○第四番の四(昔迄)

大の反對なり 昔にて『甲、乙』兩勝
大を 世に次に 大に止むれば『い、
ろ』大の四追勝



○第四番の五(昔勝)

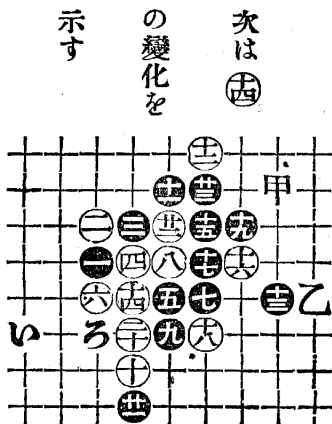
次は 大
の變化なり



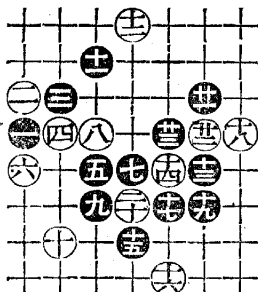
次は ⊕の變化を示す

○第四番の三(昔勝)

⊕の變化なり



次は 大
の變化を
示す



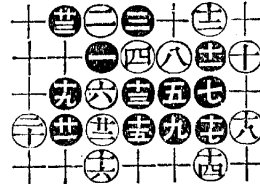
大の變化なり

○第四番の六(昔勝)

次は ⊕
の變化を
示す

○第四番の七(▲勝)

⊕の變化なり



次は⊕の變

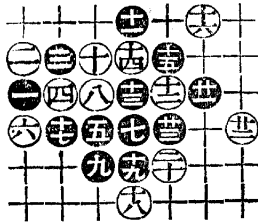
化を示す

○第四番の八(▲勝)

⊕の變化なり

次は⊕の變

化を示す



○第四番の九(▲勝)

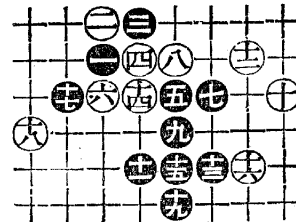
⊕の變化なり

○第四番の十(▲勝)

⊕の變化「た」の部なり

次は⊕の變

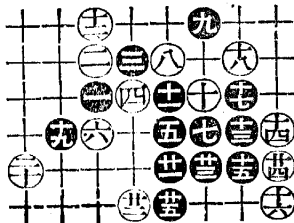
化を示す



次は⊕の

變化を示す

⊕力弱し

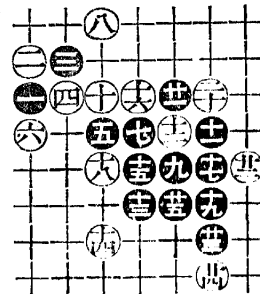


○第四番の十一(▲勝)

⊕の變化「れ」の部なり

次は⊕

示す



○第四番の十二(▲迄)

⊕の變化「そ」の部なり

次は⊕の

變化を示す



○第五番

⊕が日録第十七圖の「ほ」に來れる

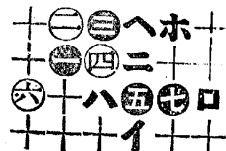
分 七に對し

八の來る所

『イ』より『へ』

迄の六ヶ所を

打示す



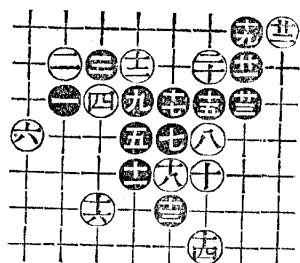
○第五番の一(●勝)

八の變化『イ』の部なり

次は八の變

兩勝

土の變化なり 土にて『い』又は『ろ』



次は土

の變化を

示す

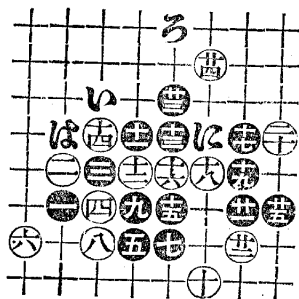
○第五番の三(●迄)

○第五番の五(●勝)

八の變化『ニ』の部なり 土を『に』に

來らば『土』い、ろ、は、土の勝

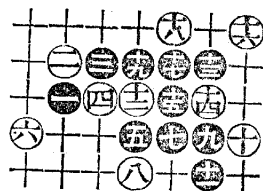
土反對は『に』に打つ迄



次は八

の變化を

示す



化を示す

○第五番の二(●勝)

八の變化『ロ』の部なり

土の反對は『土』六、土の勝

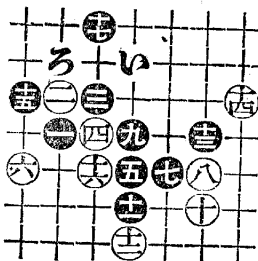
示す

の變化を

次は八

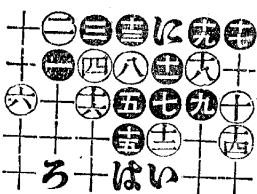
○第五番の四(●勝)

八の變化『い』の部なり



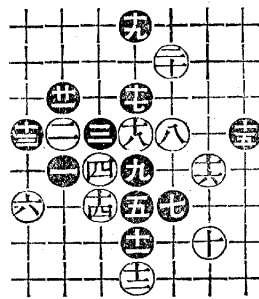
次は八の變

化を示す



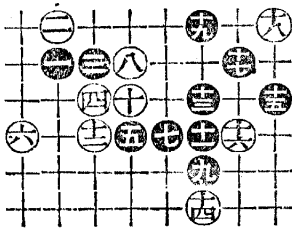
○第五番の六(▲勝)

八の變化『ホ』の部なり



○第五番の七(▲勝)

八の變化『ヘ』の部なり

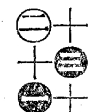


是にて第二編は終る

参考離れ手の部

第一圖は二が一間飛に止め來れる

第一圖



分なり、三を圖の如く下す時は第一編角止と同一

第二圖は二が小桂馬に止めたる分

圖の『ア』に

四を止むれば第四章附下

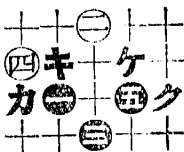
りと同一、又

『イ』は第十四章斜止、

『ウ』は第十五

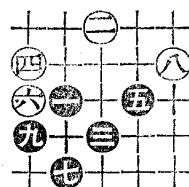
章直飛と同じ以下順次に示す

四『い』の部



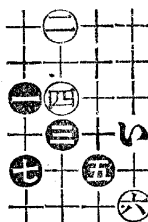
六の呼珠にて六の來る所『カ』の外容易、『キ』は『カ』と同一、『ク』を『ク』に來らば『ケ』と組立る迄

六の『カ』に來れる分



圖の如く七九と打ち跡如何に來るも追詰の形

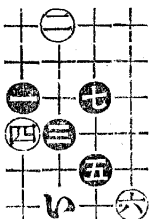
四『ろ』の部



六反對は六

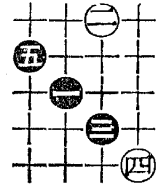
『い』と打つ

四『は』の部

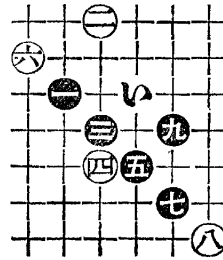


六反對は『六』と打つ

四「に」の部

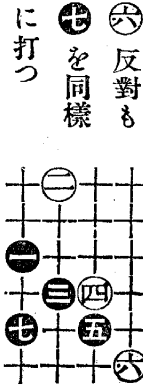


四「ほ」の部

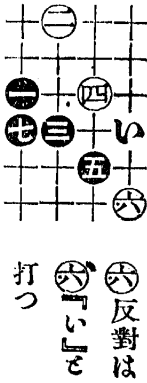


六 反對は
「六、い」と
打つ

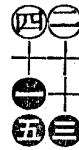
四「へ」の部



四「と」の部

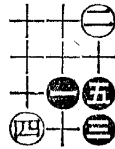


四「ち」の部

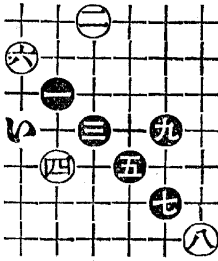


四「り」の部

四「ぬ」の部



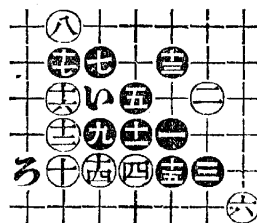
四「る」の部



三々及六聯および れんに關する
先手の注意せんてのちうい

其 一

第九章角夾第七番 六の反對は圖の如く打進まば三々にて先手負となる
を「い」に引きたる場合は同様に白に「ろ、ぬ」の順あり、故に士を士に打つが安全なり



其 二

第十一章裏槽上第三番は圖の如く七九を下して必勝なりしも士より以後白圖の如く打たば士に至り先

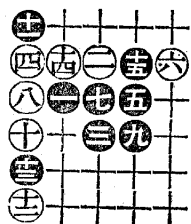
手三々負を生じ致方なし、故に先づ

⑦を④に割

り込みて徐に

陣形を整ふる

を策得とす



引く手と引かね手

其 一

第八章小桂馬之下第七番の三は④

を外より止む

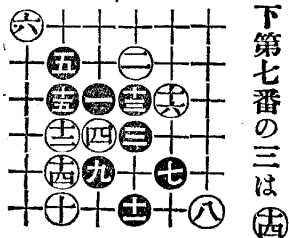
る場合なるを

斯く引きては

後手の注文に

乗せらる注意

すべし



其 三

第一章裏櫓上第四番は⑦を圖の如

く打ちてく必勝なりしも⑧以後長

聯有効の爲に⑨に至り白に『いゝろ』

の四追を

生じ如何

とも詮方

なし、

故に先づ

⑧を占

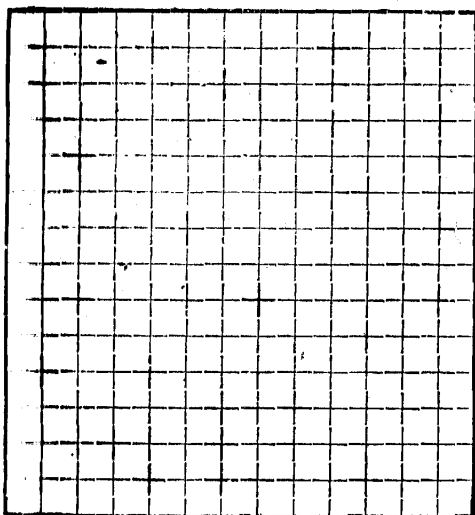
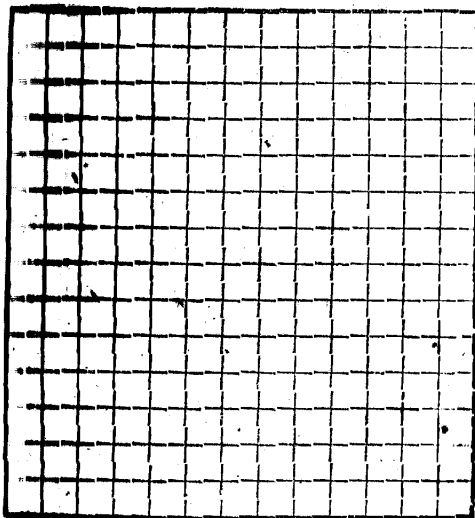
領し次に手廣く⑩に呼珠を下すを

有利なりとす

斜引先手必勝法終

參 考 記 入 局 圖

摘 要



宣言

生等は聯珠の最も文明的なる室内遊技たる事を信じ。之をして世に隆興せしめんが爲に。茲に聯珠圖書出版會を設け。三上雄石氏を以て責任代表者となし其完成を期せしむ

大正三年四月一日

聯珠圖書出版會々員

席順不同

京都市新町通二條下ノ頭町十一
大坂市東區本町四丁目一〇一
甲府市魚町
福岡市博多藏本町八
橫濱市賑町二の五
大坂市北區堂島濱通四の五
福岡市外住吉外國
高知市通町五丁目
大坂市東區上難波南の町六十二
尾道市久保町坊地
京都市西陣伊佐町
東京府下澁谷町下澁谷三十
大坂市西區南堀江通三丁目日本醬油會社内

淺井九石
森井咄牛
今井朴堂
渡邊達一
菅沼峽亭
山田知石
渡邊藤三郎
前田快石
吉村橋園
武細七太郎
石橋孝太郎
波多野正重
池田罕石

千葉縣印幡郡公津村八代
滿州哈爾濱三井物產支店內
奉天瀋陽驛官舎
大坂市南區炭屋町九十
天津日本租界曙街四十八號
熊本縣菊池郡大津町
鳥取縣米子町
千葉縣葛飾郡南行徳村
金澤市十三間町七十
京都市宮川筋五條北入
仁川宮町二丁目百四十七番戶
釜山富平町
栃木縣栃木町望町三丁目
高崎市堰代町
釜山陸軍倉庫
宇治山田市大世百五十
德島縣阿波郡八幡町
埼玉縣入間郡南畑村
大坂市西區市岡町(尻無)八百十五
岩手縣水澤町大町
神奈川縣足柄下郡前羽村
三重縣南牟婁郡有井村
膽振國勇拂郡安平

矢村響石
天野悌二
老田太文
和田高隣
玉井利三郎
武藤篤介
野坂寛治
松岡慧照
小倉加一郎
岸常次郎
別庄寅之助
大野秋月
市橋半七郎
畑中七郎
中野井兵吉
古田幹太郎
内田玩石
大澤靜石
芳澤掃石
石川龜章
石塚八郎
杉松宣方
沖喜太郎

宣言

生等は聯珠の最も文明的なる室内遊技たる事を信じ。之をして世に隆興せしめんが爲に。茲に聯珠圖書出版會を設け。三上雄石氏を以て責任代表者となし其完成を期せしむ

大正三年四月一日

聯珠圖書出版會々員

席順不同

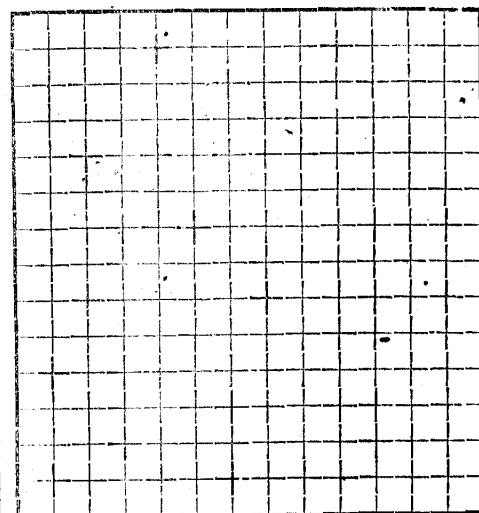
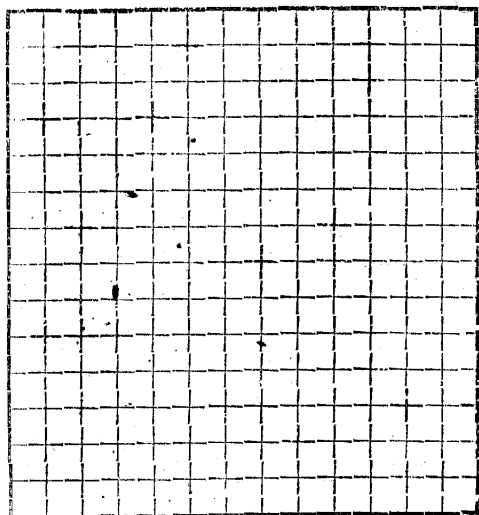
京都市新町通二條下ノ頭町十一
大坂市東區本町四丁目一〇一
甲府市魚町
福岡市博多藏本町八
横濱市賑町二の五
大坂市北區堂島濱通四の五
福岡市外住吉外園
高知市通町五丁目
大坂市東區上難波南の町六十二
尾道市久保町坊地
京都市西陣伊佐町
東京府下澁谷町下澁谷三十
大坂市西區南堀江通三丁目日本醬油會社内

淺井九石
森井咄牛
今井朴堂
渡邊達一
菅沼峽亭
山田知石
渡邊藤三郎
前田快石
吉村橋園
武繩七太郎
石橋孝太郎
波多野正重
池田罕石

千葉縣印幡郡公津村八代
滿州哈爾濱三井物產支店內
奉天瀋陽驛官舎
大坂市南區炭屋町九十
天津日本租界曙街四十八號
熊本縣菊池郡大津町
鳥取縣米子町
千葉縣葛飾郡南行徳村
金澤市十三間町七十
京都市宮川筋五條北入
仁川宮町二丁目百四十七番戸
釜山富平町
栃木縣栃木町室町三丁目
高崎市堰代町
釜山陸軍倉庫
宇治山田市大世百五十
德島縣阿波郡八幡町
埼玉縣入間郡南畑村
大坂市西區市岡町(尻無)八百十五
岩手縣水澤町大町
神奈川縣足柄下郡前羽村
三重縣南牟婁郡有井村
膽振國勇拂郡安平

矢村響石
天野悌二
老田太文
和田高隣
玉井利三郎
武藤篤介
野坂寛治
松岡慧照
小倉加一郎
岸常次郎
別庄寅之助
大野秋月
市橋半七郎
畑中七郎
中野井兵吉
古田幹太郎
内田玩石
大澤靜幽
芳野掃石
石川龜章
石塚八郎
杉松宣方
沖喜太郎

參 考 記 入 局 面



摘 要

横濱市住吉町五丁目
鳥取縣岩美郡岩倉村

東京市麴町區永田町二の三十

東海道御殿場驛

水戸市裏島見町三木方

東京市小石川區表町四十一

飛騨國高山町

岐阜縣養老郡池邊村大場

東京市四ヶ谷區傳馬町二の五鈴源方

東海道御殿場驛

田中素月
田中貞雄

鈴木良三郎

親見源作

森素石

村瀬眞一

近藤七桂

松永北冠

鈴木仙石

瀧口常雄

廣告

不肖雄石非才を顧みず斯道發展の第一着手として趣味の普及を迅速ならてめが爲に出版會を組織致候は刻下の急務なる聯珠用書を出版して廉價に供給するの目的に有之候幸にして前記有志の贊助を得候に就ては奮勉努力契つて其成功を期し御高志に酬へん茲に謹んで謝意を表す

東京市赤阪區青山高樹町十二番地一號

聯珠新報社内

三上雄石謹白

聯珠書目一覽

三上六段 淺井五段共著

○聯珠絹篩 全一冊

内容、殘月の難局を解決せる者之れによりて斯道の深奥を窺ふべし

○聯珠叢書 全一冊

各高段者の手段及び論說を蒐集せる者就中横田三段の勝方の數、加藤四段の立二聯難局解決、高山先生の採點聯珠論、等三誦の價值あり（以上三冊定價貳圓郵稅四錢）

○高橋八段著 聯珠手解 定價參拾錢送料四錢
内容、峽月桂の一部分を説明し附錄萬朝報紙上黒旋風の懸賞案を示せる者なり（本社取次）

○淺野三段著 聯珠之榮 定價廿五錢送料四錢
内容、山月、明月兩桂の打方を初心者に譯る様説明せる者なり（本社取次）

○星野三段著 七桂第五珠打方早見表 價參拾錢
送料貳錢、内容、七桂の最初の打方即ち第五珠を早見表に作れる者『ポケット形』

○三上六段著 七桂組立法第一編 價參拾錢送料貳錢

内容、峽月桂の組立即ち勝形を示せる者なり、第二編以下逐次發行

○三上六段著 聯珠雜錄 定價壹圓參拾錢

内容、様々な打方を示したる者にして、箴手もあり、乗手もあり、組立方もありて聯珠家の垂涎すべき珍書

○三上六段著 聯珠虎の巻 定價八拾錢送料貳錢

内容、從來混戦又は後手となりし局面を先手の正しき勝方に復活せる者にして實戦家の必携すべき奇書なり

○三上六段著 聯珠隨錄 定價六圓

内容、大正元年より二年に至る一年間に得たる参考局面を採録せる者にして巧妙なる手段山の如し斯道の寶庫、全書十二卷合本一冊。寫本なり

○三上六段著 七桂大觀 第一卷十冊定價拾壹圓

第二卷四冊半定價四圓五拾錢。寫本

内容、七桂打方の變化一萬局中より重要部分を逐條的に説明せる者にして七桂の真髓を究めんとせば本書によりざるべからず、第三卷以下逐次發行

一 聯珠新報

毎月一回一日發行一冊拾貳錢五厘 半年七拾錢 一年壹圓參拾錢

内容、論說、定石、手合、通信手合、懸賞案、最近の

競技會雜報等を網羅し全國珠友の機關雜誌にして聯珠家の米の飯なり一日も離るべからず

○聯珠家段級錄 新報三十九號掲載 價拾錢五厘

○段位授與規定 全 五十二號掲載 價拾貳錢五厘

○東京聯珠社々則 全 五十二號掲載 價拾貳錢五厘

○聯珠競技手合割規定 全 五十號掲載 價拾貳錢五厘

○聯珠用活字一より八十迄一組 内地送料共五拾五錢

○聯珠用紙、ロール紙二百枚貳拾五錢、和紙一帖五錢

○聯珠用木印、印材つげ九二分五厘、一より百迄、深彫、價貳圓八拾錢

○聯珠用ゴム印、九さ二分五厘、一より七十迄一組、價壹圓拾錢

○聯珠新報合本第三卷 三十八號より四十九號に至る製本堅牢金文字入 壹圓參拾錢

以上 聯珠新報社にて發賣致候代金拂込は振替口座東京貳壹七壹九番

聯珠の開祖高山互樂先生著

○聯珠真理七卷合本及訂正附錄附

右は近々萬辨舎に於て發賣す發行次第本社に於て取次ぎ申候。

○立二聯必勝法 近々本社にて發行す

大正三年六月廿五日印刷
大正三年六月廿八日納本
大正三年七月一日發行

實價七拾錢

著者

三上雄石

發行者

三上義太郎
東京市赤坂區青山高樹町十二番地一號

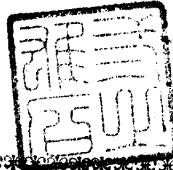
印刷者

青木道太郎
東京市京橋區新富町五丁目十番地

印刷所

青木活版所
東京市京橋區新富町五丁目十番地

著者印



複製不許

發行所

聯珠圖書出版會

東京市赤坂區青山高樹町十二番地一號
聯珠新報社內